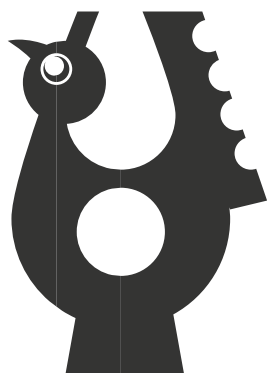


会 報

2025（令和 7）年度



社会福祉法人 天童会

理 念

私たちは、障害者の生命と生活を守り心身の成長・発達を援助し、その維持に努め社会のつながりを保ち豊かな人生を実現するために努力します

運 営 方 針

私たちは、一房のぶどうです。「園生の幸せ」の実を豊かに結ぶために、協働・共有・共感しつつ「存在」を支える支援を目指します。キーワードは「つながる」・「つなげる」です。



- 1 一人ひとりの園生の生命と健康を守り、個性を尊重し、自己実現を図ります
- 2 感染症対策をより一層推進し、安心安全な療育環境を整え日常生活や日中活動の質的充実を図ります
- 3 療育の専門職として知識・技能を高め、職員の協働により、きめ細やかな療育活動を進めます
- 4 ご家族とのつながりを大切にし、連携を深め、安心と信頼のある環境づくりを進めます
- 5 地域社会への包括的支援を担う法人として持てる機能を発揮し、力を尽くします
- 6 諸外国との国際交流を進め、福祉・療育に関わる人材の育成に貢献します

はじめに

2025 年度も世界各地において多くの尊い命が失われる痛ましい一年となりました。各地で頻発する豪雨や山火事、地震などの自然災害は、地球規模で進行する気候変動の深刻さを改めて私たちに突きつけております。また、戦争や紛争はいまだ終息の兆しを見せることなく、多くの人々が故郷や家族を失い、不安と困難の中での生活を余儀なくされております。

翻って我が国に目を向けますと、少子高齢化と人口減少は急速に進行し、医療・福祉を取り巻く環境は大きな転換期を迎えております。人材不足や物価高騰、感染症への対応など、社会福祉法人を取り巻く課題は一層複雑かつ多様化しております。

このような時代にあってこそ、私たちは「一人ひとりの命の尊厳」とは何かを改めて問い続け、その理念を実践し続ける責務があると考えております。

社会福祉法人天童会（以下、当会）は、医療型障害児入所施設「秋津療育園」を中核として、重症心身障害児者の皆さまが安心して生活できる環境を提供し、その人らしい人生を支える医療・看護・介護・療育の実践に努めてまいりました。障害の程度や年齢にかかわらず、一人ひとりの生命をかけがえのない存在として受け止め、その思いと人格を尊重することは、創立以来変わることのない私たちの使命であります。

近年、利用者の高齢化と医療的ケアの高度化は着実に進展しております。これに伴い、医療機能のさらなる充実と、安全かつ質の高い療育環境の整備がこれまで以上に求められております。当会では、これらの課題に対応すべく、中期経営計画に基づき園舎建て替え事業を着実に推進しております。2026（令和 8）年度には企画課に建設準備係を配置するなど、新たな療育環境の実現に向けた体制整備を本格化いたしました。新園舎においては、高齢化・重度化する利用者の医療ニーズに的確に対応し得る機能を備えるとともに、災害時においても安全かつ安心して生活できる施設づくりを目指してまいります。

併せて、持続可能な法人運営の確立に向け、経営基盤の強化にも鋭意取り組んでおります。リハビリテーション専門医の配置による診療機能の充実、病床稼働率の向上、短期入所の効率的運営の推進に加え、2027（令和 9）年度からの電子カルテ導入を見据え、ICT・DX を活用した業務改革にも着手いたしました。これにより、医療・療育・介護に携わる職員が、より一層利用者に寄り添う時間を確保するとともに、安全性と業務効率の両立を図ってまいります。

医療面におきましては、感染症対策を引き続き重要課題として位置づけ、継続的に取り組んでおります。長期入所施設においては、感染症の流行が利用者の健康のみならず施設運営全体に重大な影響を及ぼすことから、適切な感染対策およびワクチン接種の推進に努めております。

重症心身障害児（者）においては、長期臥床や筋活動の低下に起因する廃用性骨粗鬆症が若年期から認められ、さらに高齢化に伴う骨粗鬆症が加わることで、骨折は生活の質を大きく左右する重要な課題となっております。秋津療育園では、骨密度測定やビタミン D・K の評価を継続的に実施し、必要に応じた治療介入を行うことにより、骨折予防に一定の成果を上げております。

社会がいかに大きく変化しようとも、天童会の基本理念は揺らぐことはありません。それは、一人ひと

りの命を何よりも大切にし、その人らしい人生を支え続けることであります。そして、利用者、ご家族、地域社会、そして職員から信頼される存在であり続けることであります。

本会報では、この一年間における法人の歩みと各部門の取り組みについてご紹介いたします。皆様に天童会の活動へのご理解を深めていただく一助となれば幸いに存じます。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年7月

社会福祉法人 天童会

理事長 大石 勉

目 次

I	天童会概要	1
1	沿革	2
2	役員状況	3
3	組織図	4
4	決算	5-7
II	秋津療育園	8
1	創設経緯	9
2	施設概要	9
3	入所者の状況	10
III	事業報告	12
1	医務部	13-23
2	療育部	24-26
	療育部 第1病棟	27-32
	療育部 第2病棟	33-35
	療育部 第3病棟	36-37
	療育部 第4病棟	38-39
	療育部 活動報告	40-42
	事務局 財務経営部 医事課 入所相談係	43-44
3	秋津療育園通園センター	45-50
4	秋津療育園相談支援センター	51-52
5	定例会議一覧	53-56
6	研修・研究	57-58
IV	SLP センターアーク	59
1	施設概要	60
2	エメット保育園	60-62
3	児童発達支援センターマイム	63-66

I 天童会概要

I 天童会

1. 沿革

年月	概要
1958（昭和 33）年11 月	秋津療育園を開設（11 月20 日）
1959（昭和 34）年 7 月	病床数21 床で病院（入所）事業を開始（7 月22 日）
1962（昭和 37）年12 月	財団法人秋津療育園設立認可
1964（昭和 39）年 8 月 2 月	旧第 2 病棟、職員宿舎など増築 28 床増床（病床数49 床） 厚生省事務次官通達に基づく重症心身障害児施設として承認
1965（昭和 40）年 3 月	旧第 1 病棟、炊事棟、管理棟など増築 51 床増床（病床100 床）
1967（昭和 42）年 8 月	児童福祉法改定、児童福祉施設となる
1970（昭和 45）年 1 月	成人棟(旧第 3 病棟)増築、生活訓練棟(旧第 2 病棟)改築。 20 床増床（病床120 床）
1974（昭和 49）年 7 月	託児所を開設、家族宿舎、医師宿舎を設置
1978（昭和 53）年 3 月	秋津療育園内で歯科診療を開始
1980（昭和 55）年 4 月	養護学校訪問学級開校、秋津療育園内で耳鼻科診療を開始
1983（昭和 58）年 3 月	男子職員宿舎、母子室（親子宿泊設備）を設置
1988（昭和 63）年12 月	財団法人秋津療育園から社会福祉法人天童会に継承（12 月15 日）
1989（平成元）年 1 月	秋津療育園改築工事を開始
1991（平成 3）年 3 月	秋津療育園改築工事第 1 期完了、旧建物取り壊しを開始
1992（平成 4）年 7 月 8 月	秋津療育園改築工事第 2 期完了、8 床増床（病床135 床） 秋津療育園通園センターを開設
1993（平成 5）年 1 月	緊急一時保護、短期入所の事業を開始
1994（平成 6）年 3 月	秋津療育園改築工事が完了、40 床増床（病床175 床）
1999（平成 11）年 5 月	医療法改正に伴い、3 病棟体制を 4 病棟体制に変更
2000（平成 12）年 4 月	秋津療育園内に訪問学級高等部を開校
2004（平成 16）年 3 月	秋津療育園の屋上防水・外壁補修塗装工事を施工
2006（平成 18）年 10 月	児童福祉法改正に従い、入所事業に契約制度が開始
2008（平成 20）年 9 月	創立50 周年記念式典を実施
2010（平成 22）年 3 月	託児所「こひつじ園」を移転
2012（平成 24）年 4 月	法改正に伴い、医療型障害児入所施設（原則18 歳未満）と療養介護事業の 一体型運営に移行、通園は生活介護事業に移行
2013（平成 25）年 12 月	秋津療育園相談支援センターを開設、特定相談支援事業を開始
2014（平成 26）年 4 月	秋津療育園で障害者歯科外来診療を開始
2017（平成 29）年 4 月	こひつじ園が託児所から事業所内保育事業（小規模 A 型）に移行
2018（平成 30）年 4 月 11 月	創立60 周年記念事業として「地域支援事業準備室」を設置 秋津療育園相談支援センターで、障害児相談支援事業を開始
2019（令和元）年 11 月	創立60 周年記念事業として SLP センターアーク新築工事を開始

2021（令和3）年 1月	SLP センターアーク新築工事が完了
2021（令和3）年 3月	SLP センターアーク内にアーク こども相談センターを開設し、秋津療育園相談支援センターの障害児相談支援を移管。
	同施設内にアーク こどもクリニックを開設し、診療所の事業を開始。
	同施設内に児童発達支援センターマイムを開設し、児童発達支援、居宅訪問型児童発達支援および保育所等訪問支援を開始。
4月	SLP センターアーク内に、こひつじ園を移転し、名称をエメット保育園に変更。
7月	医師宿舎設置場所で、訪問看護ステーションあきつを開設し、訪問看護、介護予防訪問看護事業を開始
2023（令和5）年 4月	エメット保育園が事業所内保育事業（小規模 A 型）から小規模保育 A 型に移行
2024（令和6）年 3月	アーク こどもクリニックを閉鎖し、事業を廃止
2025（令和7）年 3月	訪問看護ステーションあきつを閉鎖し、事業を廃止

2. 役員状況

1) 評議員

2026(令和8)年3月31日時点

氏 名	
1 緒 方 淳	6 西 山 史 洋
2 太 田 和 男	7 分 須 隆 幸
3 小 野 寺 隆	
4 工 藤 満 生	
5 杉 野 学	

2) 理事・監事

2026(令和8)年3月31日時点

氏名（理事）	氏名（監事）
1 大 石 勉 （理事長）	1 安 沢 勝 秀
2 栗 田 昌 宗 （常務理事）	2 春 日 亮
3 大 瀧 ひとみ	
4 田 添 敦 孝	
5 田 中 弘 樹	
6 山 本 一 郎	

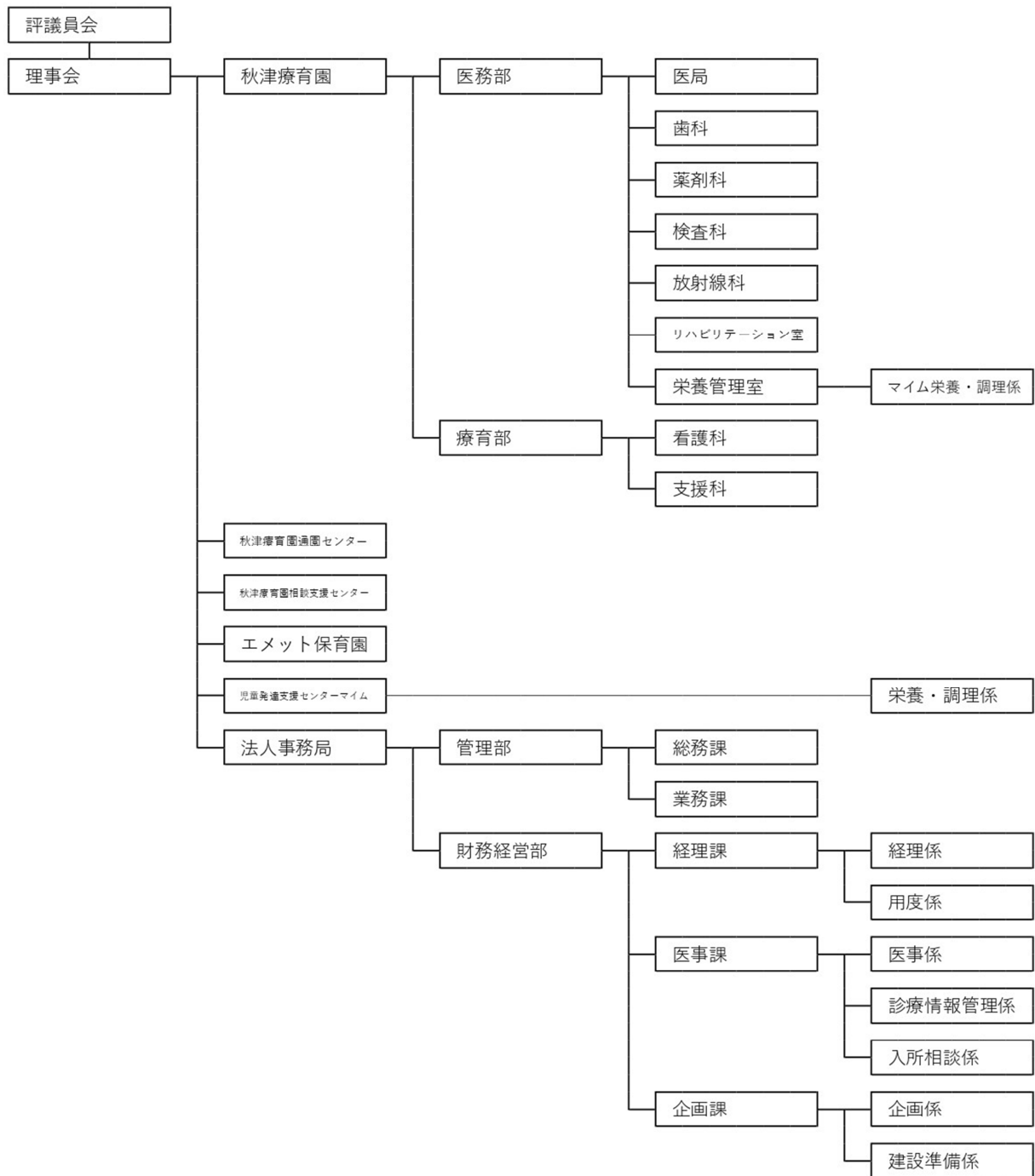
3) 従業員

2026(令和8)年3月31日時点における法人全体の総数は349人であり、内訳は以下のとおりである。

- ① 秋津療育園 287 人
- ② 秋津療育園通園センター 12 人
- ③ 秋津療育園相談支援センター 6 人
- ④ エメット保育園 12 人
- ⑤ 児童発達支援センターマイム 32 人

3. 組織

2026（令和8）年3月31日時点



4. 決算

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書

（自）令和 7年 4月 1日（至）令和 8年 3月31日

（単位：円）

勘 定 科 目			予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	15,859,000	15,782,550	76,450
		保育事業収入	62,375,000	68,444,649	-6,069,649
		障害福祉サービス等事業収入	1,283,557,000	1,297,528,930	-13,971,930
		医療事業収入	1,411,774,000	1,474,624,925	-62,850,925
		経常経費寄附金収入	3,576,000	4,312,051	-736,051
		受取利息配当金収入	28,915,000	25,455,323	3,459,677
		その他の収入	21,706,000	21,516,381	189,619
		事業活動収入計(1)	2,827,762,000	2,907,664,809	-79,902,809
	支出	人件費支出	2,053,522,000	2,089,437,098	-35,915,098
		事業費支出	362,485,000	355,369,167	7,115,833
		事務費支出	212,709,000	201,965,057	10,743,943
		その他の支出	13,128,000	12,844,498	283,502
事業活動支出計(2)		2,641,844,000	2,659,615,820	-17,771,820	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		185,918,000	248,048,989	-62,130,989	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	10,600,000	5,004,906	5,595,094
		施設整備等収入計(4)	10,600,000	5,004,906	5,595,094
	支出	固定資産取得支出	28,788,000	19,200,358	9,587,642
		その他の施設整備等による支出	2,685,000	221,000	2,464,000
		施設整備等支出計(5)	31,473,000	19,421,358	12,051,642
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-20,873,000	-14,416,452	-6,456,548	
その他の活動による収支	収入	投資有価証券売却収入		5,999,580	-5,999,580
		その他の活動による収入	7,234,000	7,272,717	-38,717
		その他の活動収入計(7)	7,234,000	13,272,297	-6,038,297
	支出	積立資産支出		10,245,775	-10,245,775
		その他の活動による支出	59,000	59,000	
		その他の活動支出計(8)	59,000	10,304,775	-10,245,775
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		7,175,000	2,967,522	4,207,478	
予備費支出(10)			—		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		172,220,000	236,600,059	-64,380,059	
前期末支払資金残高(12)			1,188,451,149	1,188,451,149	
当期末支払資金残高(11)+(12)			1,360,671,149	1,425,051,208	-64,380,059

法人単位事業活動計算書

(自) 令和 7年 4月 1日 (至) 令和 8年 3月31日

(単位：円)

勘 定 科 目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	児童福祉事業収益	15,782,550	13,002,012	2,780,538	
		保育事業収益	68,444,649	62,813,920	5,630,729	
		障害福祉サービス等事業収益	1,297,528,930	1,213,359,856	84,169,074	
		医療事業収益	1,474,624,925	1,337,907,681	136,717,244	
		経常経費寄附金収益	4,312,051	15,738,706	-11,426,655	
		その他の収益	9,028,804	8,681,310	347,494	
		サービス活動収益計(1)		2,869,721,909	2,651,503,485	218,218,424
	費用	人件費	2,109,221,519	2,051,612,960	57,608,559	
		事業費	355,369,167	354,013,450	1,355,717	
		事務費	199,594,208	185,181,310	14,412,898	
		減価償却費	158,183,443	164,256,535	-6,073,092	
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-60,653,467	-61,468,481	815,014	
サービス活動費用計(2)		2,761,714,870	2,693,595,774	68,119,096		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		108,007,039	-42,092,289	150,099,328		
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	28,984,902	24,922,964	4,061,938	
		その他のサービス活動外収益	19,760,294	6,557,258	13,203,036	
		サービス活動外収益計(4)		48,745,196	31,480,222	17,264,974
	費用	その他のサービス活動外費用	12,903,498	79,760	12,823,738	
		サービス活動外費用計(5)		12,903,498	79,760	12,823,738
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		35,841,698	31,400,462	4,441,236
経常増減差額(7)=(3)+(6)			143,848,737	-10,691,827	154,540,564	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	5,004,906	3,416,000	1,588,906	
		固定資産売却益		79,999	-79,999	
		特別収益計(8)		5,004,906	3,495,999	1,508,907
	費用	固定資産売却損・処分損	1	103,547	-103,546	
		国庫補助金等特別積立金積立額	5,004,906	3,416,000	1,588,906	
		特別費用計(9)		5,004,907	3,519,547	1,485,360
特別増減差額(10)=(8)-(9)		-1	-23,548	23,547		
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			143,848,736	-10,715,375	154,564,111	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		505,936,143	516,651,518	-10,715,375	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		649,784,879	505,936,143	143,848,736	
	基本金取崩額(14)					
	その他の積立金取崩額(15)					
	その他の積立金額(16)					
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		649,784,879	505,936,143	143,848,736	

法人単位貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

（単位：円）

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	1,538,979,942	1,284,969,991	254,009,951	流動負債	293,523,538	267,111,896	26,411,642
現金預金	1,078,488,335	846,524,928	231,963,407	事業未払金	79,120,178	69,250,987	9,869,191
有価証券	5,999,580	6,135,746	-136,166	未払費用	3,832,065	3,772,255	59,810
事業未収金	413,847,181	395,607,732	18,239,449	預り金	17,054	20,222	-3,168
未収補助金	33,144,901	28,689,472	4,455,429	職員預り金	30,422,641	23,475,378	6,947,263
立替金		106,071	-106,071	賞与引当金	180,131,600	170,593,054	9,538,546
前払金		4,333,333	-4,333,333	固定負債	79,347,834	69,101,959	10,245,875
前払費用	7,499,945	3,572,709	3,927,236	退職給付引当金	79,347,834	69,101,959	10,245,875
固定資産	8,205,412,244	8,334,564,503	-129,152,259	負債の部合計	372,871,372	336,213,855	36,657,517
基本財産	3,569,410,002	3,682,560,164	-113,150,162	純 資 産 の 部			
土地	2,210,809,008	2,210,809,008		基本金	4,384,857,288	4,384,857,288	
建物	1,358,600,994	1,471,751,156	-113,150,162	基本金	4,384,857,288	4,384,857,288	
その他の固定資産	4,636,002,242	4,652,004,339	-16,002,097	国庫補助金等特別積立金	531,774,913	587,423,474	-55,648,561
土地	525,652,820	525,652,820		国庫補助金等特別積立金	531,774,913	587,423,474	-55,648,561
建物	102,545,250	109,805,010	-7,259,760	その他の積立金	3,805,103,734	3,805,103,734	
構築物	20,988,817	24,403,308	-3,414,491	施設整備積立金	3,739,636,950	3,739,636,950	
車両運搬具	3,010,452	4,139,369	-1,128,917	修繕積立金	65,466,784	65,466,784	
器具及び備品	64,929,161	80,030,518	-15,101,357	次期繰越活動増減差額	649,784,879	505,936,143	143,848,736
権利	1,175,000	1,175,000		次期繰越活動増減差額	649,784,879	505,936,143	143,848,736
ソフトウェア	7,766,586	6,694,985	1,071,601	（うち当期活動増減差額）	143,848,736	-10,715,375	154,564,111
投資有価証券	23,208,635	25,678,636	-2,470,001				
退職給付引当資産	79,347,734	69,101,959	10,245,775				
施設整備積立資産	3,739,636,950	3,739,636,950					
修繕積立資産	65,466,784	65,466,784					
差入保証金	440,000	219,000	221,000				
長期前払費用	1,834,053		1,834,053				
資産の部合計	9,744,392,186	9,619,534,494	124,857,692	純資産の部合計	9,371,520,814	9,283,320,639	88,200,175
				負債及び純資産の部合計	9,744,392,186	9,619,534,494	124,857,692

Ⅱ 秋津療育園概要

Ⅱ 秋津療育園

1. 創設経緯

創設者草野熊吉が、キリスト教の精神に拠って、当時、児童福祉法、医療法、教育基本法などのあらゆる福祉の谷間におかれた重症児（重度重複障害児）のために、福祉の楽園を願い同志の協力を得て施設を創設した。

2. 施設概要

1) 名称 : 秋津療育園

2) 所在地 : 東京都東村山市青葉町三丁目31 番地 1

3) 開設年月日 : 1958(昭和33)年11 月20 日

4) 施設の規模

①敷地面積 : 8,936.42 m² ②建築面積 : 3,413.15 m² ③延床面積 : 9,342.01 m²

5) 建物構造

①管理棟 : 鉄筋コンクリートラーメン構造 地下2階・地上2階・塔屋1階

②第1療育棟 : 鉄骨構造 地上2階

③第2療育棟 : 鉄筋コンクリートラーメン構造 地下1階・地上4階・塔屋1階

6) サービスの種類

①医療型障害児入所施設

②療養介護

③短期入所

7) 許可病床数

178 床（長期入所 175 床、短期入所、医療入院用 3 床）

8) 歴代園長

氏名	期間
1 岡野喜久子	1958（昭和33）年11月 ～ 1961（昭和36）年7月
2 宇野重雄	1961（昭和36）年7月 ～ 1962（昭和37）年8月
3 芹沢美之	1962（昭和37）年8月 ～ 1982（昭和57）年9月
4 大島一良	1982（昭和57）年9月 ～ 1993（平成5）年1月
5 田中明	1993（平成5）年1月 ～ 1999（平成11）年9月
6 沼田正廣（園長代行）	1999（平成11）年9月 ～ 2000（平成12）年3月
7 村田篤司	2000（平成12）年4月 ～ 2012（平成24）年3月
8 白井徳満	2012（平成24）年4月 ～ 2020（令和2）年3月
9 大石勉	2020（令和2）年4月 ～ 2024（令和6）年6月
10 原田正平	2024（令和6）年7月 ～ 現在

3. 入所者の状況

2026(令和8)年3月31日現在

1) 入所児者数

(単位：人)

棟 / 人数	定床	短期	現在数	男	女	超重症児	準超重症児
第1病棟	51	1	51	28	23	16	27
第2病棟	55	1	54	28	26	0	3
第3病棟	40	0	40	22	18	0	6
第4病棟	29	1	29	15	14	2	9
計	175	3	174	93	81	18	45

2) 年齢別在籍数

棟 / 年齢	0～	10～	18～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	平均	年少	年長
第1病棟	2	4	2	6	7	10	12	4	4	42.5歳	4歳	80歳
第2病棟	0	0	1	1	5	10	14	16	7	55.4歳	18歳	77歳
第3病棟	0	0	0	1	2	7	7	11	12	59.8歳	29歳	81歳
第4病棟	1	2	0	2	1	6	6	9	2	50.3歳	5歳	77歳
計	3	6	3	10	15	33	39	40	25	52.3歳		

3) 大島分類による入所状況

IQ

21	22	23	24	25	70
20	13	14	15	16	50
19	12	7	8 <u>1人</u> 4病棟 1人	9 <u>2人</u> 3病棟 2人	35
18	11	6 <u>2人</u> 3病棟 1人 4病棟 1人	3 <u>5人</u> 3病棟 5人	4 <u>12人</u> 1病棟 1人 3病棟 9人 4病棟 2人	20
17 <u>2人</u> 4病棟 2人	10 <u>5人</u> 4病棟 5人	5 <u>7人</u> 2病棟 3人 4病棟 4人	2 <u>35人</u> 1病棟 5人 2病棟 18人 3病棟 4人 4病棟 8人	1 <u>103人</u> 1病棟 45人 2病棟 33人 3病棟 19人 4病棟 6人	0
はしれる	歩ける	歩行障害	座れる	ねたきり	

4) ADL<日常生活動作>の状況

(単位：人)

項 目		第1病棟	第2病棟	第3病棟	第4病棟	合計
移動	移動できない	40	24	17	8	89
	寝返り他の移動	7	17	15	7	46
	手足移動	2	7	7	1	17
	ささえ歩き	2	6	1	5	14
	独歩	0	0	0	8	8
言語	話せない	44	35	8	22	109
	言語理解可能	4	10	19	3	36
	単語を話す	1	5	6	2	14
	二語文を話す	0	4	4	2	10
	会話ができる	2	0	3	0	5
摂食	全介助	48	33	21	17	119
	(内、経管栄養のみ)	29	4	3	8	44
	(内、経管・経口併用)	15	5	4	2	26
	手で食べる	0	6	4	2	12
	一部介助を要す	3	11	7	6	27
	スプーンで食べる	0	3	6	4	13
	箸で食べる	0	1	2	0	3
排泄	オムツ使用	49	50	23	23	145
	時間で誘導する	1	2	2	4	9
	事前に知らせる	1	1	8	2	12
	一部介助を要す	0	1	7	0	8
	一人でできる	0	0	0	0	0
被服着脱	全介助	46	36	21	13	116
	着脱に協力する	5	13	11	12	41
	脱衣可能・着衣不可	0	4	2	2	8
	一部介助を要す	0	1	5	2	8
	一人でできる	0	0	1	0	1

5) 在園年数状況

	5年未満	5年以上	10年～	20年～	30年～	40年～	50年～	60年～	平均在園年数
第1病棟	8人	9人	8人	6人	10人	3人	5人	2人	24.2年
第2病棟	8人	3人	5人	3人	11人	7人	9人	8人	34.1年
第3病棟	5人	1人	3人	4人	11人	1人	5人	10人	35.8年
第4病棟	11人	0人	1人	1人	7人	2人	0人	7人	27.3年
計	32人	13人	17人	14人	39人	13人	19人	27人	31.2年

Ⅲ 事業報告

Ⅲ 事業報告

医 務 部

1. 医務部の方針

医務部は医局、歯科、薬剤科、検査科、放射線科、リハビリテーション室、栄養管理室で構成されている。合併症の治療、日常の健康・栄養管理を適切に行い、楽しく、健やかに過ごせるよう取り組んでいる。

2. 耳鼻咽喉科

毎月第2・第4水曜日に診療を実施している。2025（令和7）年度も標準予防策を徹底し、病棟間の接触を最小化する体制で診療を継続した。

2025 年度耳鼻科月別・病棟別受診人数、診療件数

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
受診人数	第 1 病棟	13	13	6	12	5	10	13	16	12	0	6	13	119
	第 2 病棟	14	14	13	7	15	14	13	14	15	13	13	13	158
	第 3 病棟	12	12	12	11	6	10	11	5	10	10	10	10	119
	第 4 病棟	5	10	9	12	10	9	10	6	10	10	11	10	112
	合計(人)	44	49	40	42	36	43	47	41	47	33	40	46	508
実施内容・処置	検診	35	41	40	36	30	35	31	35	42	24	32	31	412
	耳処置	0	0	2	2	0	3	2	1	2	3	3	1	19
	耳垢除去	43	49	38	38	35	40	42	37	43	30	35	44	474
	鼻処置	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	鼻ネブライザー													
	耳通気													
	鼓膜マッサージ													
	咽頭ファイバー													

3. 放射線科

毎週火曜、金曜日にレントゲン撮影、超音波検査を行っている。実績は以下の通りである。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
照射録数	64	38	51	34	46	53	48	22	47	55	55	39	552
超音波検査件数	12	14	9	9	7	10	9	10	8	11	5	12	116

4. 薬剤科

薬事委員会を5月と11月に開催し、新規採用薬の検討や採用医薬品の見直し、処方に関する新しい取り決めなどを審議した。それに伴い年2回「薬品在庫一覧」の改訂と「薬局からのお知らせ」を発行した。

新型コロナウイルスワクチンは、希望者に対して、利用者にはコミナティ筋注シリンジ、11歳以下の小児にはスパイクバックス筋注シリンジ、職員にはダイチロナ筋注を接種した。

ここ数年、後発品に限らず多種多品目の医薬品の出荷調整が常態化しその度に対応に追われているが、供給が安定している長期収載品の後発品化も推進している。

2025年度 薬剤科 月別処方箋枚数・調剤件数

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方箋枚数	定期薬	718	752	722	751	747	726	766	737	763	759	688	757
	臨時薬	459	460	446	384	412	420	421	412	406	429	377	457
	職員	13	14	13	12	9	15	14	43	26	23	33	38
	注射	77	131	123	49	122	76	71	64	32	66	21	62
	合計	1,267	1,357	1,304	1,196	1,290	1,237	1,272	1,256	1,227	1,277	1,119	1,314
	1日平均	42	44	44	39	42	41	41	42	40	41	40	42
調剤件数	定期薬	3,650	3,774	3,701	3,637	3,747	3,798	3,819	3,725	3,694	3,589	3,291	3,702
	臨時薬	550	533	554	482	509	532	512	519	465	497	442	538
	職員	29	37	23	35	24	30	29	61	40	48	65	83
	注射	171	208	232	119	232	145	106	111	52	94	30	97
	合計	4,400	4,552	4,510	4,273	4,512	4,505	4,466	4,416	4,251	4,228	3,828	4,420
	1日平均	147	147	150	138	146	150	144	147	137	136	137	143
全調剤数		52,361 (2024年度より896件増)											

<備考> ※歯科・耳鼻科・通園は臨時薬に含まれている

5. 歯科

2024 年度（以下、昨年度）に引き続き、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）やその他感染症の蔓延により診療病棟を制限し、感染予防策を徹底しながら診療を継続した。

2025 年度（以下、本年度）は病棟閉鎖や新型コロナ疑い事例が発生し、該当病棟での診療を中止する事例が昨年度よりも多くみられた。

歯科診療が可能な場合には、通常に近づけるよう診療人数を増やして実施した。

病棟職員のガウンテクニックは解除されたが、デンタルスタッフは昨年度同様、サージカルキャップ、ゴーグル、医療用マスク、フェイスシールド、サージカルガウンを装着し、完全防備で診療を行った。併せて、4 年前に導入した天井取り付け型の医療用空気清浄機および口腔外バキュームを使用した。診療終了後には、診療室内の消毒を徹底した。

通園の歯科検診および外来診療は現在も中止している。ただし、問い合わせ、電話相談、メール相談にはその都度対応した。

2025 年度月別歯科診療実績

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
受診人数		35	43	42	50	39	32	39	30	45	28	47	45	475
実施内容	検診及び	35	43	42	49	39	32	39	30	43	27	47	45	471
	予防治療													
	抜歯	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	4
	処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※この表には、通園の歯科検診、並びに歯科衛生士によるブラッシング指導は含まれない

6. 検査科

本年度4月より新たな検査システムを稼働させた。導入後メーカーと相談しながら調整を行った。導入により手作業で行っていた結果作成作業がなくなり、検査結果をより正確かつ迅速に報告が可能となった。また、10月より在庫管理システムの運用を開始し、在庫管理の明確化により廃棄品の削減、使用期限やロット管理が可能となり、業務改善につながった。

新型コロナについては、5類感染症に移行され感染者数は減少傾向ではあるが、秋津療育園内の検査数は昨年度の1割減程度であり、引き続き多忙な状況が続いた。

2025年度月別・項目別検査件数

(単位：件)

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血算・血液像 赤沈血液ガス	87	124	141	77	116	68	70	100	95	84	49	56	1,067
生化学的検査	1,248	2,304	3,041	1,714	1,762	1,003	906	2,114	1,862	1,700	1,026	903	19,583
心電図検査	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	6
尿・一般検査	28	49	52	44	35	24	27	35	38	68	29	14	443
感染症 迅速検査	74	22	19	10	75	18	30	97	35	28	61	46	515
院内 遺伝子核酸 増幅法 LAMP法(COVID-19)	41	3	56	78	149	24	4	1	14	240	136	4	750
院内 遺伝子核酸 増幅法 NEAR法(COVID-19)	80	35	114	112	154	51	35	29	105	135	61	49	960
感染症微生物検査 (培養検査：外注)	22	20	21	13	13	18	15	12	13	14	14	14	189
外注検査	43	153	57	55	42	35	8	192	69	183	144	56	1,037
月別合計	1,625	2,710	3,501	2,104	2,346	1,242	1,095	2,581	2,231	2,452	1,521	1,142	24,550

7. リハビリテーション室

本年度は人員配置体制が整ったことから、8月より疾患別リハビリテーションを脳血管リハビリテーション（Ⅱ）から脳血管リハビリテーション（Ⅰ）に移行した。併せてリハビリテーション総合実施計画書の算定を3ヵ月に1回から毎月算定に変更した。

また、リハビリテーション職員の充足により、当会の通園センター（生活介護事業）においても、利用者への介入頻度を増やすことができた。

12月には紙カルテから新たな部門システムを導入した。電子化に伴う各書類の移行作業に時間を要したため、一部については次年度へ持ち越すこととなった。

病棟職員や病棟介入する看護学生に対し骨折の機序や安全な介助方法、食事介助の基本などの講義を行った。作業療法士は評価実習と見学実習を各1名ずつ受け入れた。言語聴覚士は園内の事例研究で「嚥下機能評価における超音波（エコー）の活用について」を発表した。

1) 実績

① 病棟別

(単位：件)

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
第1病棟	327	367	349	430	265	347	383	402	393	16	177	335	3,791
第2病棟	138	188	260	128	270	242	268	215	214	314	199	248	2,684
第3病棟	212	192	219	291	116	209	268	103	205	260	169	248	2,492
第4病棟	74	117	134	126	134	126	160	35	122	187	133	98	1,446
合計	751	864	962	975	785	924	1,079	755	934	777	678	929	10,413

② 職種別

(単位：件)

職種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	382	451	452	505	402	417	509	382	449	267	321	437	4,974
作業療法	316	340	439	397	321	406	490	285	370	418	257	359	4,398
言語聴覚療法	53	73	71	73	62	101	80	88	115	92	100	133	1,041
合計	751	864	962	975	785	924	1,079	755	934	777	678	929	10,413

③ 疾患別

(単位：件)

疾患別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管リハ	735	835	944	953	778	912	1,069	737	915	777	671	921	10,247
障害児リハ	16	29	18	22	7	12	10	18	19	0	7	8	166
合計	751	864	962	975	785	924	1,079	755	934	777	678	929	10,413

※病棟閉鎖により、介入できない期間や年度途中で在籍スタッフの状況に変更があった。

8. 栄養管理室

1) 利用者の栄養管理

食事の種類

- ① 栄養量は、No.1 からNo.8 までの8段階の区分(2014(平成26)年7月1日より)
- ② 主食は、御飯・粥・パン粥・ペースト粥
- ③ 副菜は、常食・軟菜食・すりつぶし食・特すり食(2013(平成25)年10月1日より)・特別食

2) 給食数

① 利用者給食数と食事形態別

(単位:人)

	常食	軟菜食	すりつぶし食	特すり食 (特別食)	治療食	流動食	合計
4月	11	33	74	7	1	39	165
5月	12	34	72	8	1	37	164
6月	12	33	72	8	1	36	162
7月	14	34	72	7	1	39	167
8月	13	33	73	7	1	38	165
9月	14	32	71	6	1	41	165
10月	14	32	74	8	1	42	171
11月	14	32	74	8	1	40	169
12月	14	33	72	7	1	39	166
1月	12	33	58	7	1	52	163
2月	14	33	59	6	1	57	170
3月	14	34	71	8	1	41	169
合計	158	396	842	87	12	501	1,996

② 職員・通園センター食数(1日平均の食数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
職員(朝食)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
職員(昼食)	91	88	88	87	82	84	86	81	83	79	82	81	84
職員(夕食)	14	12	11	11	11	12	11	10	10	7	9	11	11
通園センター	9	9	8	9	8	8	9	8	8	9	9	9	9
合計	115	110	108	108	102	105	107	100	102	96	101	102	105

3) 給食委員会の報告

月	討議内容	栄養指導
4 月	委員会要望書、間食申し込み	給食委員会規約、年間業務
5 月	食器類、栄養補助食品見直し デザートバイキング日程とメニュー	5 月病を撃退！今から摂るべき栄養 3 選
6 月	デザート・昼食バイキング概要 とろみ・訓練皿	夏バテは防げる！～夏の暑さに負けない食事～
7 月	昼食バイキング日程、要望書 希望献立、行事食	熱中症について
8 月	病棟意見交換 希望献立用紙回収	体が鉄不足になるとどうなるの？
9 月	昼食バイキング 選択メニュー、要望書	もしもの災害に備えよ
10 月	選択メニュー、要望書	カルシウムについて
11 月	昼食バイキング配膳方法 クリスマスケーキ検討、非常食	魚と野菜の相性の秘密
12 月	行事食の日程、 選択メニュー	冷え性について
1 月	病棟意見交換 昼食バイキング、希望献立用紙	未来へつなげる！おいしく健康な食生活
2 月	間食申し込み、バレンタイン	健康のために腸活を始めよう
3 月	バイキング 来年度検討事項、要望書	食事で作れる！！花粉症対策

4) 特別メニュー・献立

① メニュー

メニュー	内容
行事食	利用者の年間行事食は、下記献立表のとおり提供した。 この他に、月 1 回の『誕生会』では、おやつにショートケーキ、昼食・夕食に行事食を提供した。 季節行事食(栄養管理室独自の名称)は、誕生会以外の日に実施した。
郷土料理	各地方の風土が作り出した独特のもので、材料の切り方や食べ頃の温度が大切である。月に一回実施した。
世界の家庭料理	世界各国の家庭料理を食べやすくアレンジして、月に 1 回提供した。 <div> 4 月 イタリア料理 10 月 スペイン料理 5 月 韓国料理 11 月 アメリカ料理 6 月 ロシア料理 12 月 日本料理 7 月 イタリア料理 1 月 イタリア料理 8 月 中国料理 2 月 日本料理 9 月 フランス料理 3 月 イギリス料理 </div>

② 献立

月	行事	献立	
4月	季節 行事食	昼	ホワイトブレッド、ボルシチ風クリーム仕立て、さっぱりみそサラダ、ぶどうのムース
		夕	サーモンと野菜のグリル、人参の甘辛炒め、蒸し鶏とドレッシングサラダ
	郷土料理	小田巻蒸し（大阪）	
5月	季節 行事食	昼	ミルクパン、鮭のぼりテリーヌ、キャベツの梅シラス、モコモコムース
		夕	御飯、味噌汁、お肉のカブト、旬の野菜ソテー、蕪の彩り吹き寄せ
	郷土料理	石狩鍋風スープ（北海道）	
6月	季節 行事食	昼	ぶどうパン、豆腐と卵のトロミあん、和風ビシソワーズ、水無月ゼリー
		夕	御飯、清汁、青しそつくねボール、キャベツとベーコンのホットサラダ、カブの冷製ジュレポン
	郷土料理	ごった煮	
7月	季節 行事食	昼	黒糖パン、俵ハンバーグ夏野菜添え、彩トマトチーズサラダ、3色ムース
		夕	枝豆御飯、清汁、豆腐の挟み天の川風、茄子のアヒージョ、さっぱりミントゼリー
	郷土料理	だご汁（熊本）	
8月	季節 行事食	昼	ミルクパン、豆腐のラタトゥイユ、青梗菜ソテー、チョコバナナ
		夕	スタミナ丼、清汁、白菜と明太子の塩煮、人参玉ねぎマリネ
	郷土料理	ひやしる（山形）	
9月	季節 行事食	昼	黒パン、月見つくね、さつまいもの黒ごま和え、かぶときのこのマリネ
		夕	御飯、味噌汁、鮭の秋野菜ロースト、茄子そぼろあん、春菊と小松菜のナムル
	郷土料理	筑前煮（福岡）	
10月	季節 行事食	昼	ミルクパン、豆腐ミートボールデミグラスソース、キャベツのガーリック炒め、アップルジンジャー
		夕	御飯、味噌汁、さんまカツタルタルソース、秋茄子の煮浸し、白菜柚子和え
	郷土料理	むらくも丼	
11月	季節 行事食	昼	黒パン、牛乳、卵とさつま芋の二色巾着、ほうれん草とひじきの鉄分サラダ、レモンティーゼリー
		夕	御飯、味噌汁、豆腐サンドのきのこあんかけ、南瓜と豆のビーガンサラダ、里芋とベーコンの醤油煮込み
	創立 記念日	きりたんぼ（秋田）	
	郷土料理	おやつ→創立記念 抹茶デザート、パインとベリー杏仁豆腐、紅茶	
12月	季節 行事食	昼	レーズンパン、牛乳、サーモンポテトのピザ、ブロッコリーのマリネ、ヨーグルトのババロアオレンジソース
		夕	御飯、味噌汁、チキンツリーバーグ、かぶのツナマヨサンド、なすのアジアンソース

12 月	クリスマス	昼	レーズンロール、牛乳、クリスマスリースハンバーグ、ポテトツリーサラダ、クリスマスデザート
		夕	ガーリックライス、コンソメスープ、ビーフストロガノフ、海鮮サラダ風
	郷土料理	ジンギスカン（北海道）	
1 月	季節行事食	昼	ホワイトブレッド、牛乳、羽子板豆腐ステーキ、カリフラワーのベーコンミルク煮、キャロットラペ
		夕	御飯、味噌汁、明太子ポテトバーグ、南瓜きのこ金平、ゴマ味噌和え
	お正月	昼	黒糖パン、牛乳、魚のフライ紅白ソース、トマトときのこソテー、ミニパフェ
		夕	御飯、清汁、蒸鶏門松風、煮しめ、プチおせち、ゆず生酢
	郷土料理	キャベツの博多蒸し(福岡)	
2 月	季節行事食	昼	ホワイトブレッド、牛乳、スクランブルエッグカカオ風味、カリフラワーサラダ、スイートトマトゼリー
		夕	海南鶏飯、中華風スープ、海南鶏飯付け合わせ、三色野菜のごま和え
	郷土料理	すいとん	
3 月	季節行事食	昼	ミルクパン、ひし形ハンバーグ、野菜のカルパッチョ、ひな祭りのゼリー
		夕	春の散らし寿司、清汁、白身魚の２色ソース、春野菜の煮物、菜の花と桜えびの和え物
	郷土料理	源平生酢	

③ 選択メニュー

利用者の食事形態に応じて調理を行った。丼物やパン類、主菜の新メニューを検討し、選択メニューの幅を拡大した。

昼食および夕食については、２種類のメニューから写真を見て好みを選択できる方式とし、希望に応じて食事を提供した。

日程	昼食 選択メニュー	夕食 選択メニュー
4 月 4 日	1 鶏肉の黒酢ソース 2 蒸し鶏のネギソース	1 釜焼きビビンバ 2 オムライス デミグラスソース
5 月 26 日	1 鮭と青菜のアーリオ・オーリオ風 2 白身魚の彩り揚げ	1 海鮮ドリア 2 クッパ
6 月 10 日	1 手作りようかん 2 パンナコッタ カラメルソース	1 すき焼きハンバーグ 2 ハンバーグサルサソースかけ
7 月 20 日	1 ラザニア 2 ミートボールグラタン	1 ビーフシチュー 2 オニオングラタンスープ
8 月 6 日	1 洋梨のムース 2 冷やしぜんざい風	1 パエリア 2 冷汁

9月5日	1 卵サンドイッチ 2 エビマヨサンドイッチ	1 魚のアクアパッツァ風 2 魚の味噌マヨ焼き
10月11日	1 豆腐と鮭のグラタン風 2 麻婆豆腐	1 蟹入りあんかけチャーハン 2 ライスピザ
11月6日	1 クリームサンド フルーツ 2 クリームサンド チョコソース	1 サイコロステーキ和風おろし 2 さんま塩焼き
12月5日	1 南瓜のパンナコッタ 2 カフェオレムース	1 牛丼 2 ふわふわカツ丼
1月29日	1 八宝菜 2 鮭のバターホイル焼き	1 ミートローフお好み焼きソース 2 ミートローフコーンマヨソース
2月5日	1 鶏肉の煮込みカチャトーラ風 2 チーズダッカルビおろしソース	1 海鮮チーズリゾット 2 鮪漬け丼
3月6日	1 魚のテリーヌ 2 魚のタンドリー風カレー	1 煮込みハンバーグ 2 ミートボール トマト煮込み

5) 料理教室

第1、2、3病棟で計11回料理教室を実施した。メニューは利用者を中心に病棟ごとに計画・調整した。昨年度までは感染症予防のため栄養管理室職員と利用者の接触を控えていたが、本年度より再開となった。

料理教室の調理方法は、病棟ごとに栄養管理室職員と利用者が一緒に調理を行う形と、厨房内でスポンジケーキまたはムースを配膳し、利用者が各自でトッピングを行う形とした。

日程	病棟	形式	メニュー
4月 10日	第3病棟	参加型	カップケーキ、カフェオレ（冷）
4月 17日	第2病棟	参加型	クッキー（ミルフィーユ風）、ハニーマキアート
5月 8日	第3病棟	参加型	モンブラン、カラメルカプチーノ
5月 24日	第1病棟	病棟配膳	スポンジケーキとムースケーキのデコレーション、ミルクティー
6月 18日	第3病棟	参加型	オレンジカスタードケーキ、ミルクコーヒー
7月 10日	第2病棟	参加型	バナナチョコ生クリームクレープ、キャラメルミルクティー
7月 16日	第3病棟	参加型	チーズブリュレ、ウインナーコーヒー
10月 9日	第3病棟	参加型	スフレチーズケーキ、黒糖カフェオレ
1月 14日	第3病棟	参加型	プリンアラモード、カフェオレ
2月 4日	第3病棟	参加型	あんみつ、お抹茶
2月 12日	第2病棟	参加型	バナナチョコ生クリームクレープ、アップルティー

6) バイキング食

①デザートバイキング

感染症予防のため、メニュー数を減らし配膳する形式で実施した。

病棟	日程	献 立
第1病棟	7月22日	オレンジチョコマーブル、ぶどうのムースケーキ、やわらかたこ焼き 紅茶、ミルクティー、リンゴジュース
第2病棟	8月7日	オレンジチョコマーブル、やわらかたこ焼き、練乳いちごのかき氷風 紅茶
第3病棟	8月7日	練乳いちごのかき氷風、桃とラズベリーのムース、なめらかコーヒープリン 紅茶、ミルクティー、ウェルチ（グレープ）
第4病棟	7月8日	ぶどうのムースケーキ、2色ようかん、練乳いちごのかき氷風 紅茶、ミルクティー

②昼食バイキング

感染症予防のため、メニュー数を減らし配膳する形式で実施した。

病棟	日程	献 立
第1病棟	11月21日	オレンジチョコマーブル、桃とラズベリーのムース、やわらかたこ焼き アップルジュース、ミルクティー
第2病棟	11月13日	天津飯風、お刺身盛り合わせ、BBQ ミートローフ、卵のフリッタータ、野菜 の彩りムース、お任せポタージュ、ジェラート 紅茶
第3病棟	11月6日	握り寿司2種、お刺身盛り合わせ、BBQ ミートローフ、オムレツナポリタン風、 彩り豆乳ムース、南瓜とあんこおしるこ風、お任せポタージュ、ジェラート ウェルチグレープ
第4病棟	2月18日	握り寿司2種、海老チリマヨソース、牛すき焼き風、エッグベネディクト 豆腐のスンドゥブ風、南瓜とあんこおしるこ風、海老のビスク、ジェラート 紅茶

療育部

1. 理念

「私たちは、細やかな目と優しい手で、重症児・者の命を守り生活を支援し、安全・安心・安寧な生涯が送れるよう、チーム療育に努めます。」

2. 構成

療育部は、利用者の直接的処遇および療育全般を業務とする部署であり、看護科と支援科で構成されている。4つの病棟は障害者施設等入院基本料により区分され、第1病棟および第4病棟では「一般病床10対1」、第2病棟および第3病棟では「療養病床20対1」の配置基準を採用している。各病棟は看護科長および支援科長を中心とした管理体制をとり、利用者の医療と療育を実践している。

3. 活動方針

- 1) 安全で安心できる療育（医療・看護・支援）を提供する。
- 2) 施設基準に準じた病床管理、病棟運営を行う。
- 3) 施設建て替えに向けた看護職員の人材確保と療育職員の人材育成に努める。

4. 感染状況について

新型コロナの世界的流行から6年、また2023年5月の「5類感染症」移行から2年が経過した。本年度、当園では新型コロナに起因する病棟閉鎖が3回発生した。同ウイルスは依然として高い感染力を有するものの、治療薬の効果も相まって重篤な症状に至った利用者はいなかった。しかしながら、新型コロナ以外の感染症においても、インフルエンザやRSウイルスの流行により3回の病棟閉鎖を余儀なくされた。加えて、ライノウイルスやヒトメタニューモウイルスといったウイルスの流行に対しても、細心の注意を払いながら年間を通じて適切な感染防止対策の徹底に努めた。

1) 病棟閉鎖の状況

病棟	病名	病棟閉鎖した期間	罹患者数
第2病棟	新型コロナ	7月17日～7月31日	利用者4人 職員2人
第3病棟	新型コロナ	8月11日～8月25日	利用者6人 職員4人
第3病棟	インフルエンザ	11月9日～11月18日	利用者5人 職員5人
第4病棟	RSウイルス感染症	11月4日～11月25日	利用者8名 職員2名
第1病棟	新型コロナ	12月28日～2月12日	利用者23人 職員15人
第1病棟	インフルエンザ	2月25日～3月6日	利用者2人 職員2人

2) その他感染症

ヒトメタニューモウイルス、ライノウイルスによる感冒の発症があったが拡大には至らなかった。

5. 利用者の状況について

1) 利用者の状況、ケアについて

利用者の高齢化や重症化が進む中、本年度は悪性腫瘍摘出が5例、骨折が3件発生するなど、より専門的で個別性の高い対応が求められる1年であった。個々の病状に応じた適切なケアを提供するため、成年後見人の意向を尊重しつつ、専門医療機関との密な連携のもとで治療方針を決定し実行した。対応が難航する事例についてはACP委員会を開催し、組織的な対応体制を強化した。

2) 入退所状況

病棟全体の入退所の状況は、新規入所者6人（契約・措置）、死亡退所3人であった。

3) 面会、外泊の状況

昨年度から直接面会の制限を撤廃し、外泊についても「1回につき最長2泊、月4泊まで」と拡大した。本年度、外泊した利用者の月平均は5人であった。ご家族の面会は年間で1,129人であった。

6. その他の状況について

1) 職員状況

①職員の入職

病棟全体の職員入職状況は、中途採用者および非常勤を含め、看護科職員6人、支援科職員6人であった。

②人材確保の取組

看護学校を対象に就職説明会およびオンライン就職説明会の開催、大学生や看護学生の実習の受入れ、看護学生のインターンシップを実施した。

③EPA 職員の育成

2017（平成29）年12月にEPAによるインドネシア国籍職員の受け入れを開始し、2026年（令和8年）3月末時点で13人が就労している。そのうち介護福祉士国家資格保有者は8名であり、支援科職員の13%を占める貴重な戦力となっている。

（注）EPAとは経済連携協定に基づき、日本で介護福祉士取得を目指して就労する外国人を指す。

3) 研修について

①外部研修

日本重症心身障害福祉協会、心身障害児総合医療センター、看護協会および東京都が主催する各種研修が開催され、新人看護師研修、看護師研修、看護管理研修等に当部各科から参加した。

②プロフェッショナルナース関連の研修

オンラインと対面を組み合わせた1年半のカリキュラムである「第8期生東京都プロフェッショナルナース育成研修」が2024年6月に開講し、療育部から2人の看護師が研修生として受講、2025年11月に修了した。受講した2人は、いずれも「協会認定重症心身障害看護師」の認定を取得した。

③施設内の研修

法令に基づき、感染予防・事故防止研修を２回、虐待防止・個人情報保護研修を１回実施した。職員が随時視聴できるよう録画配信を活用した。

４）その他の取り組み

①アンケート

全職員を対象に、「虐待の芽アンケート」を実施した。

②相談窓口の設置

虐待防止・ハラスメント防止のための相談窓口を設置し、相談体制を強化した。

1. 療育部 第1病棟

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者1人であった。2026(令和8)年3月末時点で、超重症児(者)16人、準重症児(者)27人であった。

2) 利用者の状況

利用者の高齢化および重症化に伴い、新規疾患の罹患や同一症状を繰り返し治療困難になるケースが発生しており、高い医療処置が求められる割合が増えた。

3) 取組の状況

利用者に豊かな生活を提供することを目的に、個別活動、ライフステージに沿った活動(発達支援活動等)、少人数活動を軸とした取組を展開した。

①個別活動

個別活動については、短時間でも取り組めるよう活動の一覧化、マニュアル化、実施表の簡易化を行い実施した。医療度の高い利用者に対しては、同一体位による変形・拘縮予防や呼吸機能改善を目的として、車椅子乗車、腹臥位・側臥位での体位変換、筋緊張を和らげるマッサージを積極的に取り入れた。

②発達支援活動(たんぼぼくらぶ)

ライフステージに沿った活動の中核である発達支援活動については、実施後の振り返りや定期的な個別評価を重視し、利用者の特性を活かした継続的なアプローチを行い、利用者だけでなく特別支援学校の卒業生も受入れを実施した。

③少人数活動

きめ細かな個々の支援を行うため少人数で取り組みを実施した。

④お楽しみ会

病棟全体で取り組みを行うお楽しみ会を毎月3回実施した。

⑤生活支援

居室単位で絵本の読み聞かせ、タブレットやBluetoothスピーカーを用いた音楽遊びや映像鑑賞、動機能の低下を防ぐための乗車訓練、心身をリフレッシュする外気浴、リモート面会を実施した。

4) 取組実績

① 発達支援活動

目標	個別設定・達成した時点で次段階へ移行
参加者	19 歳以下の 8 人
職員	保育士・リハビリテーション室職員
場所	第 1 病棟 プレイルーム
内容	<p>① 始まりの挨拶（始まりの歌・呼名） くじ引きで呼名の順番を決める 返事をするまでの時間を設ける。</p> <p>② あそびうた（個別） 対象物を用いて、各々の目標とする動きを引き出す。</p> <p>③ あそびうた（グループ） 曲に合わせボディタッチ、他利用者との触れ合いを楽しむ。それぞれが注目される場面をつくる。</p> <p>④ 終わりの挨拶（終わりの歌）</p>
まとめ	<p>① 毎週土曜日に実施し、年間 42 回行った。</p> <p>② 新型コロナによる病棟閉鎖や、感染症拡大防止のため居室対応を余儀なくされた時期もあったが、活動を積み重ねてきた結果、再開時には利用者が普段どおりに参加することができた。</p> <p>③ 対象者の増加に伴い、職員数に応じて参加者数を調整し、柔軟に対応した。</p> <p>④ 本年度も利用者の体調面を考慮し、午前・午後の二部構成で実施した。</p> <p>⑤ 昨年度と同様、4 ヶ月ごとに利用者の状況を評価した。誰が見ても分かりやすいよう関数計算を用い、達成できている点と課題のある点を表に整理した。この評価表を基に職員間でアプローチ方法を検討・共有した結果、視線や手足の動きなど、目標に応じた反応を引き出すことができた。</p> <p>⑥ ポンパ（小児用クッションチェア）やクッションチェアを活用し、座位でのアプローチを組み合わせたことで、対象物に積極的に触れる場面が増加した。対象物や音楽は昨年度と同様のものを使用した。触感の違いをより明確に感じられるよう、タオル地やナイロン製の素材を増やす工夫を行った。</p>

② カレッジ活動

活動内容	制作
活動目的	① さまざまな姿勢で活動に参加する中で自ら動く機会を作る ② 参加者が主体的に活動に参加し、学習する機会を作る ③ 同世代の仲間を意識し、集団の中で自己を表現する ④ 職員が利用者とじっくり関わるができる場を作る
学習目標	① 校章制作を通し、自分の意思を形にする。
個人目標	① 利用者ごとに個別設定を行い、達成したら、新たな目標を立て取り組む。 ② 本年度末に結果の評価を行う。
参加者	7 人
参加職員	病棟支援科職員・リハビリテーション室職員
場所	第1病棟 プレイルーム
内容	1) 始まりの挨拶（校歌・呼名・目標の確認） ラジオ体操 活動内容の確認 2) 主な活動 ① 制作の映像を見てイメージを膨らませる ② 素材選びをする ③ 選んだ素材を使用して校章作りをする ④ 終業式にてお披露目 3) 終わりの挨拶 ① 目標の達成度を評価 ② 活動内容の写真や動画を見て自分の姿を見る
まとめ	① 参加者は、対象年齢に該当する利用者を各居室から選出し、新型コロナの予防対策を徹底した。 ② 月1回、年間8回実施した（1、2月は感染症発生のため中止となった）。 ③ 太田ステージを用いて参加利用者の発達段階を評価し、個別に目標を設定した。 ④ 目標に対する達成度を数値化したところ、平均得点は45点中42.8点であった。参加回数や表出の有無により得点は変動するものの、概ね高評価であり、活動を通じて利用者の持つ能力を引き出すことができた。 ⑤ 授業は2～3人の少人数で実施したが、グループ数が増加したため、1人あたりの参加は年3回となった。 ⑥ 利用者はいずれも自らの気持ちを表現するだけでなく、他の利用者の行動を静かに見守ったり褒めたりすることができた。終業式を全員参加で実施し、作品のお披露目をして、自分の作品が評価されることで達成感を得られ、他者の作品に対しても意識を高めることができた。

③ 少人数活動

活動内容	リラクゼーション活動 スヌーズレン
目標	① 少人数の活動を楽しむ(活動を通してリラクゼーションを促す)。 ② ゆったりとした空間で穏やかな時間を過ごし、五感を刺激していく。
参加者	22 人
場所	病棟内
まとめ	① 年間 6 回実施した。 ② プロジェクターを使用することで部屋全体に光が届き、どの方向からでも楽しむことができた。 ③ 小さいライトや感触を楽しめる物品を用意し、個々に合わせて提供できるよう配慮した。

④ 音楽活動

活動内容	車椅子ダンス
目標	①少人数の活動を楽しむ(参加者みんなで 1 つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ②車椅子ダンスを楽しむ ③リズムや音調を感じ取り、音楽・体の動きを楽しむ
参加者	13 人
場所	病棟内
まとめ	① 計 3 回実施した。 ② ダンスの動作を簡素化することで、参加した利用者の様子に応じて無理なく取り組めるよう配慮した。

⑤ 音楽あそび

活動内容	音楽あそび
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で 1 つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② リズムを身体で感じる ③ 職員との触れ合いの中で心地良い繋がりを感じリラックスする ④ 音楽の楽しさに触れる
参加者	32 人
場所	病棟内
まとめ	① 計 8 回実施した。 ② 開始時に曲と手遊びの動きを紹介してから取り組むことで、活動を円滑に進めることができた。 ③ タッピングにより楽しい雰囲気を醸成し、最後に照明を暗くして変化を与えたことで、利用者にリラックスした表情が多く見られた。

⑥ 体験活動

活動内容	ドライブ
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み職員を介して他者とのかかわりを楽しむ)。 ② 外の景色を眺め、バスの揺れを感じながらドライブを楽しむ。
参加者	46 人
場所	秋津療育園周辺
まとめ	① 計 16 回実施した。 ② 季節に応じた景観の良いコースや、参加者の興味に沿った内容で実施した。 ③ 利用者の急変に備えるため、吸引が必要な利用者が参加する場合には看護師が同乗し対応した。

⑦ 床運動

目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 機能維持、変形拘縮予防
参加者	21 人
場所	1 棟プレイルーム
まとめ	① 計 9 回実施した。 ② プレイルームで行うことで、スペース的に余裕があり、個々に合わせた運動が実施できた。 ③ 運動として体を伸ばしながら、会話や音楽を通して楽しめるよう配慮した。

⑧ 体験活動：エアートランポリン

活動内容	エアートランポリン
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 大型遊具に触れ、身体を動かすことや普段と違った遊びを楽しむ
参加者	13 人
場所	プレイルーム
まとめ	① 計 4 回実施した。 ② 音楽や利用者の様子に応じて、エアートランポリンの揺らし方を工夫した。 ③ 最後にはクールダウンとして、ゆったりとした音楽を用い、寛ぐ時間を設けた。 ④ 安全管理および MRSA 対応に配慮し実施した。

⑨ 体験活動：制作

活動内容	制作
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ)。 ② 感覚遊びを取り入れ制作した物で遊ぶ。 ③ 作品を披露し、褒めてもらう。
参加者	10人
場所	病棟内
まとめ	① 計5回実施した。 ② 制作物を完成させ、その後に遊ぶという流れは、参加者にとって「作る楽しみ」「遊ぶ楽しみ」に加え、達成感にもつながった。 ③ 活動全体は楽しめていたが、制作そのものを楽しめる参加者は限られていた。

⑩ おしゃれ

活動内容	おしゃれを楽しむ
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ)。 ② 洋服を着替え、ネイルやスキンケア、ヘアセットを行うことで本人の嗜好に応じた装い等を通じて自己表現の喜びを感じる。 ③ お披露目や写真撮影を行い、コミュニケーションを図りながら雰囲気を楽しむ。
参加者	2人
場所	病棟内
まとめ	① 計1回実施した。 ② 本年度より着替えを省略したことで、ヘアアレンジやネイルアートなど、個々の好みに応じた内容をゆっくりと実施することができた。 ③ お披露目の際には周囲から多くの称賛を受け、利用者が嬉しそうな様子を示した。

療育部 第2病棟

1 病棟の状況

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者2人、死亡退所1人であった。2026(令和8)年3月末時点で準重症児(者)は3人であった。

2) 利用者の状況

利用者の状況は、脳血管障害や悪性新生物により他病院に入院した方がいたため、担当医と連携して検査や経過観察を行い早期発見に努めた。

3) 取組実績

①料理教室

活動内容	料理教室
実施回数	3回
参加者	17人
場所	大会議室
まとめ	クレープ・ケーキ、ミルクティーを提供した。

②園外療育

場所/東久留米イオンモール・所沢航空公園・狭山湖・小金井公園

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	9	10	6			6	10	3	5				49人
回数	3	3	2			2	3	1	2				16回

③散歩・ドライブ

目的: 散歩・ドライブ活動を行い、街の様子など普段と違った雰囲気や景色を見ることで、新たな発見・楽しみを体験する。環境を変えることでストレスの軽減を図る。

内容	内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
散歩	人数	51	63	3				74	16	29	3	24	29	292
ドラ	人数	10	12	13	11	21	15	9	10	9	16	14	6	146
イブ	回数	5	6	6	5	10	7	4	5	4	8	7	3	70

④王子様カフェ

目的：園庭に出て季節を感じながらデザートを自分で選び味わう。

普段食べないものを味わうことで新たな発見、楽しみを体験する

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	8	13	5	8	16	22		19	8	19		7	125人
回数	1	2	1	1	2	2		1	1	2		1	14回

4) グループ取組実績

① 音楽取組

活動内容	音楽取組（ピアノ演奏会、楽器演奏会）
目的	① 個々に合った音楽を聴き楽しむ ② 音楽に触れ、気分転換を図る ③ 個別の園生に行う
実施回数	ピアノ演奏会 7回 参加者 55人 楽器演奏会 3回 参加者 16人 目的③においては20回実施した。
場所	大会議室、病棟内浴槽

② リラクゼーション

活動内容	リラクゼーション活動 ・ホットパック・足浴とマッサージ ・CDにてリラクゼーション音楽鑑賞 ・美容エステとおしゃれ体験
目的	① 心身共にリラックスする。 ② 主訴・症状に合わせたマッサージを提供し軽減を図る（便秘、下肢のむくみ、冷え、皮膚の乾燥、筋緊張など）。 ③ オシャレを楽しみ、スタッフに声をかけてもらい、喜びや楽しみを感じる ④ 夏時期にメイクや顔の保湿を行い、浴衣・甚平を着用し季節の雰囲気を感じる
実施回数	マッサージ 7回 参加者 47人 おしゃれ 9回 参加者 64人
場所	各居室

③ スヌーズレン

活動内容	スヌーズレンを用いてのリラックス
目的	① 穏やかな光・音・振動を感じて心身共にリラックスする ② 職員とコミュニケーションを取ることで気持ちが満たされる
実施回数	15回 参加者 99 人
場所	各居室内
特記事項	バイブレーションホース、チェーンブランケットを用いることで情動行動が落ち着く利用者がいた。

療育部 第3病棟

1 病棟の状況

1) 入退所の状況

本年度の入退所はなかった。2026(令和8)年3月末時点で準重症児(者)は6人であった。

2) 利用者の状況

感染症や利用者の体調変化に対応するため、プレイルームの一部を病室に変更し環境整備を行った。病棟閉鎖下においても療育や日中活動の充実を図り、制限された生活による負担軽減に努めた。利用者の平均年齢59歳であり、高齢化対策を踏まえ、リハビリテーション室と連携し運動機能の維持・低下予防に取り組んだ。

3) 取組実績

昨年度に引き続き、コロナ対応のため居室単位で過ごす時間が多かったが、感染状況や利用者の健康状態に配慮しながら活動内容を見直し実施した。

①料理教室

活動内容	料理教室
目標	利用者自身で調理することを通してデザート作りの工程を知る
実施回数	7回
参加者	32人
場所	各居室・大会議室
まとめ	プリン・ケーキ・あんみつ・紅茶・カフェオレなどを提供した。

4) 病棟全体の取組

目標	① 季節に応じた文化・行事を体験する ② 活動の幅や興味の拡大を図る
活動内容	バレンタインデー、ホワイトデー、園芸、お楽しみ会、 ドライブ、実験、年賀状、暑中見舞い制作
参加者	利用者40人、職員24人

5) グループ取組

① 園芸

活動内容	園芸（植物の成長過程の観察や手入れ、収穫の実施）
目的	① 土や野菜に触れ、野菜の成長過程を楽しむ ② 収穫体験や制作を通して植物に触れる機会を設ける
実施回数	15 回
参加者	利用者 17 人 職員 5 人
場所	病棟内
まとめ	野菜の感触や香りを楽しみながら収穫を体験し、水やりを習慣化することで、植物の成長を身近に感じることができた。

②勉強

活動内容	主にパワーポイントを使用し、講義受講の疑似体験をする
目的	利用者の身近な事柄に関する知識の提供、及び関心・興味の拡大
実施回数	12 回
参加者	利用者 12 人 職員 5 人
場所	病棟内
まとめ	香りを嗅ぐ、メイクをするなどの体験型の内容を中心に行った。取り組み内容によっては、利用者を限定して実施した。

③スヌーズレン

活動内容	スヌーズレングッズを使用しリラクゼーションの提供
目的	穏やかな光・音・振動を感じて心身共にリラックスを図る
実施回数	23 回
参加者	利用者 17 人 職員 4 人
場所	活動部屋
まとめ	スヌーズレン室での活動をメインに実施した。活動に対して専門的な物品を多く使用できるため参加者の反応も良かった。

④運動

活動内容	運動（利用者の機能に合わせた運動やストレッチの実施。活動後にリラクゼーション、マッサージを行う）。
目的	利用者の運動機能に合わせた活動の提供
実施回数	16 回
参加者	利用者 22 人 職員 4 人
場所	リハビリテーション室
まとめ	リハビリテーション室と連携して運動内容を検討したため、より利用者個々にあった運動メニューを提供することができた。

4. 療育部 第4病棟

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者3人、死亡退所が1人であった。2026(令和8)年3月末時点で超重症児(者)2人、準重症児(者)9人、強度行動障害児(者)14人であった。

2) 利用者の状況

利用者は幼児期から77歳までと幅広く、高齢化や障害の重度化に伴い、喀痰吸引をはじめとする日常的な医療的ケアの必要性が高まっている。一方、重度の障害がありながらも活動性の高い利用者も多いことから、突発的な行動に対する安全管理と、一人ひとりの状態に応じた医療的ケアの両面において、よりきめ細かな対応が求められている。

3) 取組実績

① 個別活動

活動内容	スノーズレン、セラピー、散歩、外気浴、運動
目的	個別支援計画に準じ個々に適した活動を実施する
実施回数	毎月10～15回
参加者	利用者29人、第4病棟職員全員
場所	病棟内・秋津療育園内・秋津療育園周辺

① 散歩

活動内容 : 散歩

目的 : 情緒の安定、気分転換を図る

場所 : 秋津療育園周辺、空堀川

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
散歩	人数	123	37	10	0	0	0	70	0	34	57	95	115	541

② ドライブ活動

活動内容 : ドライブ

目的 : バスの乗車によりドライブを楽しむ。情緒の安定、気分転換を図る

実施回数 : 毎月10～15回

場所 : 多摩湖、西武園

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ドライブ	人数	29	36	33	36	23	35	35	5	23	36	33	36	360
	回数	14	18	16	16	10	16	15	3	9	22	15	17	171

③リハビリ活動

活動内容	個々に合わせた機能運動・動作をする
目的	① 体機能の低下の防止 ② 身体を動かしさまざまな刺激を楽しむ機会を作る
実施回数	毎週火曜日
参加者	利用者 8 人 第 4 病棟職員全員
場所	病棟、多目的室

④デザート（お茶会）

活動内容 : 数人でスイーツを食べる

目的 : 季節に合わせたスイーツを楽しむ

実施回数 ; 毎月 1 回

場所 : プレイルーム

内容		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
デザート	人数	18	19	19	19	19	19	20	0	20	20	20	20	213

5. 療育部活動報告

1) 年間行事

行事名	日程	内容
誕生会	毎月 第3日曜日	誕生者の紹介、手作りカードとプレゼントを贈り、 お祝いの歌や季節の歌、職員による出し物などを行う (7月は第1日曜日、9月は第2日曜日、12月と3月は第1日曜日)
料理教室	通年	栄養管理室協力のもとメニューを調整し、料理を作る工程を体験、試食する。 実施回数 第1病棟1回、第2病棟3回、第3病棟7回 合計11回実施
お花見	3月下旬～ 4月上旬	第1病棟の園庭で実施 おやつを食べ桜の花を見物
こどもの日	5月5日	こどもの日に関連したお楽しみ会を実施
運動会	6月開催	第1病棟(6月11、18日)、第2病棟(6月10、17、24日) 第3病棟(6月28日)、第4病棟(6月12日)
七夕	7月7日	笹に願いごとを書いた短冊や飾りを装飾 7月に七夕にちなんだお楽しみ会を実施
デザート バイキング	7月、8月	栄養管理室に協力いただき、数種類のデザートメニューをゆつくりと ながれる時間の中で楽しむ 第1病棟(7月22日)、第2病棟(8月7日)、 第3病棟(8月7日)、第4病棟(7月8日)
納涼会	9月	各病棟および各居室単位において、お楽しみ会(出店など)、神輿、 盆踊り、花火を、各病棟で日程を調整のうえ実施した。 第1病棟(9月10日、17日)、第2病棟(9月17、18日) 第3病棟(9月3日)、第4病棟(9月25日) 第2棟、第3棟(9月・10月に花火実施)
お月見	9月中旬	お月見にちなんだ装飾をしてお話やゲームを行う
文化祭	11月～ 翌年2月	各病棟にて実施
昼食 バイキング	11月 2月	栄養管理室に協力のもと、十数種類のメニューの中からそれぞれの利 用者の好みに合った物を楽しみながら食べる 第1病棟(11月21日)、第2病棟(11月13日) 第3病棟(11月6日)、第4病棟(2月18日)
クリスマス 会	12月	クリスマスケーキ配膳 第1病棟(12月10、17日)、第2病棟(12月16日、18、22日) 第3病棟(12月18、20日)、第4病棟(12月18日)
お正月	1月上旬	初詣 各病棟にお賽銭箱を設置 書初め、凧揚げ、羽根つき、福笑いなど正月あそびを行う

節分	2月3日	鬼や福の神のお面を制作する 年男・年女の利用者を中心に病棟ごとに豆まきを行う
ひなまつり	3月3日	お雛さまの装飾を飾る、歌やゲーム、お話を楽しむ

2) SH (サウンドヒーリング)

目的

- ① 恒常性機能の活性を促すための取り組みとして、音叉と精油を使用したトリートメントを行う
- ② 施術者の状態を整える事でより良い施術が出来るという理念に基づいた施術
- ③ 全職員へのSHの周知

実施状況

病棟	参加人数	回数	備考
第1病棟	33	14	
第2病棟	51	30	
第3病棟	69	36	
第4病棟	0	0	
合計	153	80	

3) 活動室

高齢化や個別のニーズの多様化に備え「どのような状況でも質の高い療育活動を提供すること」を目的に活動する

- ① 活動時間を柔軟に対応することにより楽しい時間を増やす
- ② 利用者のQOLの向上を目指し、個々の体調や状態、状況に応じた取り組みを行う
- ③ 病棟の要望に合わせ、必要な時に必要な園生に実施する
- ④ 継続的な活動支援をする。
- ⑤ ララランチ お楽しみ会などのイベントを主催することにより棟内準備負担の軽減に繋げる

対象者：全利用者対象

取組内容

1病棟：ララランチ SLP ひかり活動支援 行事写真撮影 居室活動 音楽 SH

2病棟：ララランチ お楽しみ会 居室活動 行事写真撮影 ポプリ製作 音楽 SH スヌーズレン
個別活動

3病棟：お楽しみ会 居室活動 各行事 棟内取り組みヘルプ ドライブ 音楽 SH スヌーズレン
個別活動

4病棟：ララランチ SLP ひかり活動支援 音楽 SH キッズ音楽 個別活動

活動室実績

(単位；人)

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別取組	77	153	131	84	87	174	258	147	169	136	128	127	1,671

* (お楽しみ会・行事の人数は含まない)

病棟別実績

(単位:回)

病棟	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 病棟	6	8	6	12	8	14	12	10	15	0	7	13	111
2 病棟	37	45	37	17	31	52	46	36	26	40	25	35	427
3 病棟	9	20	25	30	7	38	49	36	37	27	25	37	340
4 病棟	1	4	12	14	17	6	6	3	8	13	11	11	106
SLP	2	2	1	2	2	1	2	0	1	2	2	2	19
合計	55	79	81	75	65	111	115	85	87	82	70	98	1,003

6. 事務局 医事課 入所相談係

1) 入退所内訳

新規入所

(単位：人)

病棟	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 病棟	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2 病棟	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
3 病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 病棟	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6

退所

(単位：人)

病棟	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 病棟	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
3 病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 病棟	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3

- ① 2022 年 8 月から続いていた空床は、2025 年 9 月 1 日に満床となったが、12 月に 1 名の退所があったため、2026 年 3 月末現在、2 病棟の 1 床が空床となった。
- ② 新規募集の選考は 3 件実施した。

2) 長期入所 その他の業務

利用者および家族関係	① 成年後見人選任、変更、追加の連絡、家族からの相談等 ② ワクチンなどの同意書の送付・回収 肺炎球菌、带状疱疹、インフルエンザ、Covid-19 ワクチン ③ 医務部、療育部より 書類の送付・回収 入院診療計画書・個別計画書・サービス提供記録書等 ④ メール配信サービスによる連絡網の運用 ⑤ 個人用物品購入の連絡 31 件
リハビリテーション室との連携	① 車椅子、補装具の新規製作や修理の手続き等の支援 延べ 350 件
その他	① 東京都小平特別支援学校との連絡 ② 家族会との連携（月例会出席、催しへの協力等） ③ 市民税・都民税申告 利用者 62 人分（東村山市市民税係へ提出）

3) 短期入所

①利用実績

(単位：床)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間
床数	94	105	115	109	130	88	86	84	105	87	91	88	1,182

②その他

内容	人数	備 考
契約者数 2026 年 3 月 31 日時点	37 人	内訳：成人 24 人 児童 13 人 2025 年度利用なし：2 人
新規契約者	8 人	
児童一時保護委託	1 人	
契約解除	1 人	理由：施設入所
新規診察（再審含む）	11 人	動く重症児者：6 人、体験入所未実施：3 人 診察待機者：14 人
体験入所	6 人	

秋津療育園通園センター（生活介護事業）

1. 事業概要

1) サービスの種類

日中活動	個別活動・全体活動・行事・外出活動
送迎	委託バス 3 台 3 コース（4 便） 法人所有車（ワゴン）1 台（2 コース） ※看護師添乗 20 人送迎
入浴	希望者全員実施 週 1 回 月曜日～金曜日 午前中に実施
健康管理	日々の管理、月ごとの管理、予防接種など
その他	個別支援計画、相談、ご家族懇談会、個人面談など

2) 年間休日および開所時間

- ① 年間休日； 土日祝および年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日まで）
② 開所時間； 午前 9 時 ～ 午後 4 時

2. 利用者の状況（2026(令和 8)年 3 月 31 日時点）

1) 登録数内訳

- ① 定員数：20 人 登録数：20 人 内訳（男性：6 人、女性：14 人）
② 平均年齢：31.9 歳

2) 居住地域

- ① 東村山市（8 人）② 清瀬市（2 人）③ 西東京市（3 人）④ 東久留米市（4 人）
⑤ 東大和市（2 人）⑥ 小平市（1 人）

3) 入退所の状況

入所 1 人（4 月）

4) 利用者詳細

① 年齢内訳 (単位：人)

年齢	19～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳以上	合計
利用者数	9	7	3	1	20

② 在籍年数 (単位：人)

在籍年数	1～3 年	4～9 年	10～20 年	21 年以上	合計
利用者数	2	8	8	2	20

③ 通所日数 (単位：人)

通所日数	週 2 日以下	週 3 日	週 4 日	週 5 日	合計
利用者数	4	6	0	10	20

④ 大島分類内訳 (単位：人)

大島分類	1	2	3	4	合計
利用者数	15	3	0	2	20

※全利用者が障害支援区分 6 に該当。

⑤ 主要病因 (単位：人)

病名	人数	病名	人数
脳性まひ・てんかん	8	髄膜炎後遺症	1
染色体異常：18・22 トリソミー	2	A 群色素性乾皮症	1
染色体異常：4 p-症候群	1	神経性皮膚黒色症	1
虚血性低酸素脳症	1	ヘルペス脳炎後遺症	1
低酸素脳症	1	レット症候群	1
副腎白質ジストロフィー	1	ドラベ症候群	1

5) 利用者の医療的ケア

① 全体に占める医療的ケアを必要とする利用者： 70%

② 呼吸管理対象者；

人工呼吸器/24 時間 2 人、必要時 1 人、夜間 4 人、在宅酸素 9 人

③ 吸入、吸引及び経管栄養など医療的ケアを必要とする方：14 人

④ 超重症児者スコア (単位：人)

医療的スコア	10 点未満	10 点以上25 点未満	25 点以上	合計
人数	7	6	7	20

※利用者全体に占める超重症・準超重症者の割合：65%

6) 2025 年度月別登園状況

	開園日数	月間定員数	月間登園 予定数	月間 登園数	臨時登園数	稼働率(%)	欠席数
4 月	21	420	319	219	0	52.1	100
5 月	20	400	305	215	0	53.8	90
6 月	21	420	318	209	0	49.8	109
7 月	22	440	337	227	0	51.6	110
8 月	20	400	305	199	0	49.8	106
9 月	22	440	304	206	0	46.8	98
10 月	22	440	338	248	0	56.4	90
11 月	18	360	278	182	0	50.6	96
12 月	20	400	304	213	0	53.3	91
1 月	19	380	291	211	1	55.5	80
2 月	18	360	276	195	0	54.2	81
3 月	21	420	317	234	0	55.7	83
計	244 日	4,880 人	3,692 人	2,558 人	1 人	52.4%	1,134 人

※稼働率＝出席者数÷（定員数×開園日数）

※欠席理由 1. 家族都合／その他 2. 短期入所 3. 体調不良 4. 受診 5. 入院
感染症対策などの欠席理由はその他に含む

3. 年間スケジュール

1) 2025 年度月別行事

月別	行事名	その他取組
4 月	入所式、お花見、誕生会	散歩
5 月	誕生会	散歩
6 月	誕生会	散歩
7 月	七夕、誕生会	
8 月	スイカ割り、誕生会	
9 月		外出活動（電車体験：国分寺駅）、散歩
10 月	ハロウィン、誕生会	外出活動（電車体験：国分寺駅）、散歩
11 月	誕生会	インフルエンザ予防接種、散歩
12 月	クリスマス会、誕生会	インフルエンザ予防接種
1 月	初詣、正月あそび	書初め
2 月	豆まき、誕生会	
3 月	ひな祭り、料理教室、誕生会	散歩

※今年度、年間イベントにて誕生会をご家族参加で実施

4. 活動状況

1) 外出活動

散歩や外気浴	気候が良い日に駐車場や中庭で外気浴 通園センター周辺の散歩
電車体験 国分寺	感染対策を講じ、ご家族の同意を得て実施
初詣	感染対策を講じ、清瀬日枝神社に参拝

2) 地域参加活動

多摩地域施設交流会：リモート参加が中止となり、不参加となった。

3) 行事活動

季節行事	季節に合わせお花見、七夕、スイカ割り、ハロウィン、正月あそび、豆まき、雛祭りなど、季節感を感じられるような制作活動を交えながら実施した。
年間イベント (大誕生日会)	今年度、家族参加も含む誕生日会を計16回実施した。 家族に幼少期からの写真をお借りして、プロジェクターにて鑑賞しながら家族(参加できない家族には事前)にコメントを頂き、入園前のお話を伺った。 その後、参加利用者がハンドベルで『ハッピーバースデー』の演奏を披露し、職員からお祝いのメッセージを送り、皆でお祝いを行った。 利用者の幼少期を直接伺う貴重な機会となった。
クリスマス会	登園日に合わせて計3回実施した。 聖歌隊衣装を着た職員が厳かな雰囲気の中、キャンドルサービスを行った後、一転、華やかな雰囲気ですんたくローズとトナカイに扮した職員が劇やダンスを披露し、プレゼントを渡しながら記念撮影を行った。
料理教室	栄養管理室の協力を得て、「クマクッキー作成」料理教室を3回実施した。 プロジェクターにて料理工程が分かるよう映写し、職員が説明しながら、一緒に工程を進め成形まで利用者と共にやり、成型したものを栄養管理室で焼き、完成品を利用者の家庭に持ち帰った。利用者ご家族から、好評であったとの報告を多数受けた。

4) 日中活動

個別対応を中心とした活動を実施するとともに、全体活動では感染対策を講じながら季節行事を取り入れて実施した。

運動	① 個別支援計画に基づき、歩行や座位保持などの機能訓練を実施した。 ② 呼吸管理が必要な利用者には、肺リハビリテーションや姿勢変換を行い、排痰を促した。 ③ 冬季は身体が硬くなりやすいため、マッサージやストレッチを中心に実施した。 ④ トランポリンやバランスボール等で大型遊具を使用し体を動かした。
----	--

音楽	① 季節感を意識した歌を鑑賞したり、ハンドベルや鈴などの楽器を用いて演奏した。 ② 手あそび歌にあわせてマッサージやストレッチを行った。 ③ 様々な音を聞く機会を提供した。 ④ プロジェクターにてミュージシャンのコンサートやPVを鑑賞しライブ感を感じた。
制作	① 季節の行事に合わせて壁飾りなどを制作した。 ② クリスマス会などの行事に向けた準備制作を行った。
心安	① 暗室にして、光、映像、音楽などで雰囲気演出し、リラクゼーションを図った。 ② アロマオイルを用いて心身のリラクセスを促した。 ③ 夏季には氷などを使用したクーリングを実施した。 ④ 手足浴、ホットパックにて血流の循環を促した。(主に冬季)
遊楽	① ゲーム(ボーリング、的当て、ポッチャ、ビンゴなど) ② トランポリン③ バランスボール
生活	① セタやひな祭りなど、季節の行事に関する学びを実施した。 ② 本や絵本の読み聞かせを行った。③ 映画鑑賞を実施した。 ④ 散歩や外気浴などの戸外活動を行った。⑤ 園芸
個別	① 個別支援計画に基づき、ICTやお化粧、枠はめ、シール貼り等、利用者の要望に合わせて実施した。 ② 意思決定支援を意識し、上記項目内から本人が好む活動を本人に確認して実施した。

5) 活動実績

(単位:回)

	運動	制作	遊楽	心安	音楽	生活	外気浴	外出活動	個別活動	合計
4月	24	4	3	9	15	36	20	0	20	131
5月	10	5	6	8	18	28	12	2	21	110
6月	22	13	9	7	8	14	0	0	23	96
7月	28	11	4	8	12	20	0	2	5	90
8月	26	3	7	7	15	23	0	0	19	100
9月	24	8	13	6	7	25	2	0	28	113
10月	21	14	3	7	4	32	11	0	26	118
11月	21	0	2	5	3	33	11	0	29	104
12月	21	16	2	6	7	23	1	0	31	107
1月	19	23	11	7	3	11	0	0	26	100
2月	20	14	1	11	7	14	0	0	22	89
3月	21	2	3	7	13	22	3	0	27	98
合計	257	113	64	88	112	281	60	4	277	1,256

※本年度、ボランティア公演2回あり

5. 職員の構成

管理者	1 人 常勤・兼務	サービス管理責任者	1 人 常勤
医師	1 人 常勤・兼務	看護師	5 人 常勤
支援員	6 人 常勤	作業療法士	2 人 兼務

6. 研修・その他

1) 連絡会等

- ・都内重症心身障害児(者)通所施設連絡会
- ・多摩地域施設交流会実行会議（リモート）

2) 研修

- ・接遇・マナー研修 4 人
- ・コーチング研修 4 人
- ・サービス管理責任者研修
- ・介護職員等に痰の吸引等の実施のための研修（特定の者対象） 3 人
- ・定期グループワークの実施（業務改善・意識改革など）

3) 家族対応

- ・家族懇談会
- ・個別面談の実施
- ・個別相談（家庭訪問・在宅サービス・在宅医療など）

4) 見学

- ・件数：7 回（延べ人数 15 人）

5) その他

- ・ベッド7 台納品、1 階フロアをベッド体制とした
- ・シルバー人材による週 2 回の定期清掃の導入
- ・委託運転手と連携した通園単独避難訓練の実施

秋津療育園相談支援センター(相談支援事業)

1 事業概要

指定計画相談支援、指定障害児相談支援

2 職員配置状況

管理者	常勤兼務 1 人
相談支援専門員	常勤専従 4 人 非常勤専従 1 人 常勤兼務 2 人

※相談支援専門員（社会福祉士・精神保健福祉士・その他）

2025 年度より秋津療育園入所者を担当する非常勤専従職員が増員された。

3 契約状況

2026 年 3 月 31 日現在の契約者数は、地域成人 299 人（秋津療育園通園センター利用者を含む）、地域児童 187 人、秋津療育園入所者 161 人となった。

4 サービス等利用計画およびモニタリング報告書提出実績

秋津療育園相談支援センターが 2025 年度に提出した障害福祉サービス等利用計画(成人)は 206 件、モニタリング報告書(成人)は 459 件。障害児支援利用計画（児童）は 179 件、モニタリング報告書(児童)は 246 件。障害福祉サービス等利用計画(入所者)は 65 件、モニタリング報告書(入所者)は 286 件であった。

5 2025 年度月別請求等件数

(単位：件)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
新規	成人	0	0	1	0	6	3	2	0	1	0	2	2	17
	児童	0	0	1	2	2	4	3	2	0	1	1	5	21
	入所者	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4
計画	成人	17	15	16	15	13	17	11	29	11	12	13	20	189
	児童	10	13	9	13	16	15	15	15	7	11	18	16	158
	入所者	3	0	19	1	0	6	6	9	2	4	3	8	61
モニタリング	成人	32	45	37	37	37	38	36	40	47	34	39	37	459
	児童	10	26	22	22	19	26	16	22	18	16	29	20	246
	入所者	26	11	30	21	16	41	15	10	36	20	16	44	286
その他	成人	20	22	21	20	23	13	18	15	13	17	18	11	211
	児童	2	4	5	4	4	6	6	7	7	10	11	8	74
	入所者	12	7	19	9	9	8	8	7	7	5	5	9	105
合計	成人	69	82	75	72	79	71	67	84	72	63	72	70	876
	児童	22	43	37	41	41	51	40	46	32	38	59	49	499
	入所者	41	18	69	33	25	56	29	26	45	29	24	61	456

6 地域の活動状況

①東村山市自立支援協議会の専門部会の一つである相談支援部会の副会長として定例部会に参加した。定例部会は毎月開催され、内容は東村山市からの情報提供および事務連絡、参加事業所からの報告および情報交換、事例検討、地域課題の抽出、他分野（児童、高齢）との交流会であり、併せて相談支援部会等の検討を行うための相談支援専門員主任会にも参加した。

②東村山市自立支援協議会の専門部会の一つである地域生活支援部会の一員として定例部会に参加した。定例部会は集会形式にて偶数月に行われ、内容は東村山市からの情報提供および事務連絡、参加事業所からの報告および情報交換、事例検討、地域課題の抽出、相談支援部会との交流会などであった。

7 研修

- ① 「第1回小児在宅医療サポートチーム勉強会」6月12日
- ② 「高次脳機能障害講習会」6月29日
- ③ 「第2回小児在宅医療サポートチーム勉強会」7月3日
- ④ 「のびのび育ちの会 子どもが自発的に動くこと」9月5日
- ⑤ 「令和7年度東京都相談支援従事者初任者研修」10月30日、10月31日、11月28日、1月7日、1月22日、1月23日
- ⑥ 「東京都高次脳機能障害支援養成研修 基礎研修」11月2日、11月12日
- ⑦ 「多摩あおば病院 地域医療連携協議会」11月7日
- ⑧ 「のびのび育ちの会 子どものアレルギー」11月13日
- ⑨ 「令和7年度東京都強度行動障害支援者養成研修 実践研修」11月21日、12月9日、12月12日
- ⑩ 「ブリヂストンチャレンジド見学会」12月2日
- ⑪ 「のびのび育ちの会 子どもの呼吸とてんかん」12月17日
- ⑫ 「令和7年度東京都多摩小平保健所難病講演会 在宅人工呼吸器使用難病患者のその人らしさを踏まえた災害対策準備」1月15日
- ⑬ 「のびのび育ちの会 小さく生まれた赤ちゃんのこと」1月19日
- ⑭ 「国立障害者リハビリテーションセンター見学会」2月2日
- ⑮ 「のびのび育ちの会 こどもの心臓のお話」2月7日
- ⑯ 「東京都高次脳機能障害支援養成研修 実践研修」2月27日
- ⑰ 「令和7年度第5回小児在宅医療サポートチーム勉強会 よりよく生きるためのACP」3月12日

定例会議一覧

1) 施設基準・法律等により設置されている会議

会議名	会議内容
医療安全管理委員会	<p>実施回数：月1回</p> <p>出席者：</p> <p>園長、副園長、医務部長、療育部長、療育部次長、 各病棟看護科長、栄養室長、通園所長、サービス課長、相談所長、 薬剤科員、検査科員、リハ室員、事務局員</p> <p>内容：</p> <p>ひやりはっと委員会報告や感染症対策委員会等を通じて、安全管理全般について検討する。</p>
感染症対策委員会	<p>実施回数：月1回</p> <p>出席者：</p> <p>園長、副園長、医務部長、各病棟主治医、療育部長、療育部次長、 各病棟看護科長、栄養室長、通園所長、相談所長、 サービス課長、薬剤科員、検査科員、歯科員、リハ室員、事務局員、 業務課員</p> <p>内容：</p> <p>検査科員から施設内の検査結果の報告を受け、感染症の予防および対策について検討し、法人の感染対策に係る方向性を委員会で決定する。</p>
褥瘡予防対策委員会	<p>実施回数：月1回</p> <p>出席者：病棟医師、看護科員、支援科員、薬剤科員、リハ室員、栄養室長</p> <p>内容：利用者の褥瘡発生防止と対策について検討する。</p>
身体拘束委員会	<p>実施回数：年1回</p> <p>出席者：</p> <p>園長、副園長、担当医師、療育部長、療育部次長、 各病棟支援科・看護科科長、事務局員</p> <p>内容：身体拘束の状況について確認を行う。</p>
適切な コーディネートに 関する委員会	<p>実施回数：年2回</p> <p>出席者：担当医師、薬剤科員、事務局担当（医事課員）</p> <p>内容：</p> <p>標準的な診断および治療方法を園内で周知徹底し、適切なコーディネートを行う体制を確保する。</p>
給食委員会	<p>実施回数：月1回</p> <p>出席者：園長、担当医師、リハ室員、栄養室長、看護科員、支援科員、事務局員</p> <p>内容：利用者の食事形態、メニューについて検討する。</p>

安全衛生委員会	実施回数：月1回 出席者： 園長、産業医、各病棟看護科・支援科員、検査科員、 事務局員（衛生管理者）、業務課員 内容：施設内の労働環境の改善を図る。
薬事委員会	実施回数：年2回 出席者：園長、副園長、医務部長、担当医師、療育部長、薬剤科員 内容：施設内の薬品について購入、変更等を検討する。
医療ガス 安全管理委員会	実施回数：年1回 出席者： 担当医師、看護科員、検査科員又は薬剤科員、事務局員、 業務課員（汽罐担当者） 内容：医療ガスの状況について確認、検討を行う。
個人情報 保護管理委員会	実施回数：年1回 出席者：医務部員、療育部員、栄養室員、事務局員、業務課員 内容：各部署の個人情報保護の状況について確認、対応を検討する。
虐待防止委員会	実施回数：年4回 出席者：園長、副園長、療育部長、サービス課員、事務局員 内容：施設内の虐待の状況報告、虐待防止対策について検討する。
医療放射線安全管理 委員会	実施回数：年1回 出席者：担当医師、放射線技師 内容：診療用放射線について正しく理解し、安全管理の体制を整備する。

*上記出席者の略名については、以下のとおりである。

① 部署

秋津療育園 医務部→医務部

秋津療育園 療育部→療育部

秋津療育園 医務部 リハビリテーション室→リハ室

秋津療育園 療育部 看護科→看護科

秋津療育園 医務部 栄養管理室→栄養管理室

法人事務局→事務局

医務部薬剤科→薬剤科、医務部検査科→検査科

② 役席者

秋津療育園長→園長

秋津療育園副園長→副園長

秋津療育園 療育部 療育サービス課長→サービス課長

秋津療育園 通園センター所長→通園所長

秋津療育園 相談支援センター所長→相談所長

2) その他の会議

会議名	活動内容
四役会議	実施回数：月2回 出席者：理事長、常務理事、園長、副園長、事務局員 内容：法人の経営、運営に関する事項等について決定する。
連絡調整会議	実施回数：月1回（第1月曜日） 出席者： 理事長、園長、各部署の管理職（課長職が不在の場合、部署の代表者） 内容：各部署の状況報告し情報交換を行う。
医務部会	実施回数：月1回 出席者：医務部員 内容：医療に関する情報交換を行う。
療育部会	実施回数：月1回 出席者：療育部長、療育部次長、各病棟科長 内容： 活動方針、入院診療計画、個別支援計画、発達支援計画に沿った療育の実施内容を検討する。
入院診療計画書 個別支援計画書 検討委員会	実施回数：月1回 出席者 各病棟主治医、各病棟科長、リハ室員、看護科・支援科利用者担当員、サービス課員 内容：提出された入院診療計画書及び個別支援計画書の内容を検討する。
教育担当委員会	実施回数：月1回 出席者 療育部次長、各病棟科長、栄養管理室長、リハ室員、サービス課員、事務局員 内容：職員育成に関する研修教育の計画と実施、会報の編集を検討する。
倫理委員会	実施回数：年2回 出席者：園長、副園長、療育部長、事務局員、園長の指名する者 内容：施設内の倫理的な問題を調査、検討する。
死亡事例検討委員会	実施回数：随時 出席者： 園長、副園長、医務部長、療育部長、療育部次長、各病棟科長、サービス課員、事務局員 内容：利用者死亡時の報告および事例について検討し、情報共有を図る。
短期・医療入院 ベッド調整会議	実施回数：月1回 出席者：療育部長、療育部次長、各病棟科長、サービス課員 内容：短期入所の受け入れに向け、調整を行う。
栄養ケアプラン	実施回数：月1回

会議	<p>出席者：</p> <p>園長、各病棟主治医、リハ室員、栄養管理室員、看護科員、支援科員</p> <p>内容：</p> <p>全利用者を対象に作成された栄養管理計画に基づき、関係職種が連携して栄養管理を検討し、栄養ケアプランを作成する。</p>
ひやりはっと委員会	<p>実施回数：月1回</p> <p>出席者：</p> <p>副園長、療育部次長、医務部員、薬剤科員、リハ室員、栄養管理室員、看護科員、支援科員、通園センター員</p> <p>内容：</p> <p>各部署・病棟から報告されたインシデント・アクシデント事例を委員会で共有し、事故分析を行った上で再発防止策を講じる。必要に応じて医療安全管理委員会へ報告する。</p>
園生衣類検討委員会	<p>実施回数：月1回</p> <p>出席者：各病棟担当者、事務局員、業務課員</p> <p>内容：利用者にとって快適な衣類を検討する。</p>
輸血療法委員会	<p>実施回数：年1回</p> <p>出席者：</p> <p>園長(医療安全管理者)、副園長、医師、療育部長、療育部次長、薬剤科員、検査科員、事務局員</p> <p>内容</p> <p>輸血療法を円滑かつ適正に、最新の輸血情報に基づいて実施し、もって利用者の安全確保および治療効果の向上に寄与する。</p>
ACP委員会	<p>実施回数：必要に応じて</p> <p>出席者</p> <p>園長、副園長、医師、療育部長、療育部次長、事務局員、園長の指名する者</p> <p>内容：終末期医療に関して家族の希望を確認し、治療方針を検討する。</p>

※ 上記出席者の略名については、1) 施設基準・法律等により設置されている会議の記載と同様である。

研修報告

1. 2025年度現任研修

現任職員研修は、ビデオ視聴による研修を主とし、視聴期限を設けた上で記名式アンケートを提出する方法とした。職員の研修受講率を高めるため、責任職がパソコン上で職員の受講状況を確認し管理を行った。

配信月	内 容	講 師	受講講義名
6 月	療育上の事故防止 I	WE B	形骸化させない！ 安全確保につながる確認業務
7 月	感染予防 I	WE B	基本を再確認！ 感染経路の理解
8 月	個人情報について	WE B	よくわかる個人情報保護の基本と取り扱い方
9 月	医療ガス	秋津ネット	医療ガスの取り扱いについて
10 月	感染予防 II	原田園長	感染症の状況と感染対策の基本理解
11 月	ハラスメント講義	WE B	みんなで目指す「ハラスメントのない職場」とは
12 月	療育上の事故防止 II	WE B	形骸化させない！ 安全確保につながる確認業務

2. 新規採用職員研修に関する状況

1) 前期研修

月日	講師	講義内容
4 月 1 日	事務局	訓示・辞令交付
	理事長	天童会について
	事務局	防災と消防について・館内設備案内
	栄養管理室課長	職員食事・食事注文伝票
	園長	重症児者と感染症
	療育部	職員の心構えとマナー
	事務局	就業規則
	療育部	個人情報保護について
	療育部	虐待防止・ハラスメント
	研修担当者	まとめ
4 月 2 日	看護科 担当者	看護科の役割について
	看護科 担当者	手指衛生、PPE の着脱
	栄養管理室長	栄養管理室の役割について
	支援科 担当者	支援科の役割について
	支援科 担当者	心肺蘇生・AED
	リハ室 担当者	リハビリの役割について
	支援科 担当者	研修まとめ
4 月 9 日	リハ室 担当者	トランスファー研修

2) 採用職員研修（後期研修）

月日	講師	講義内容
10月25日	名誉園長	脳性麻痺、知的障害、てんかん
	看護科 担当者	呼吸器等の使用方法について
	支援科 担当者	振り返りと今後について
	リハ室 担当者	骨折について

3. 研究報告

1) 学会報告

第50回 日本重症心身障害学会学術集会 演題①
第36回 重症心身障害療育学会 学術集会 演題②
① 第1病棟 : 演題:「血圧変動が及ぼす食事摂取量との関係性」
② 第4病棟 : 演題:「ADLの向上に繋げる取り組み」

2) 施設内演題

発表者	演題
第1病棟 支援科	「自己表出や他者との自発的な関わりを目指した取り組み」
第2病棟 看護科	「言語コミュニケーションの困難な患者の終末期の援助」
第3病棟 支援科	「個別活動を用いた関係性構築への取り組み」
第4病棟 看護科	「筋緊張の強い重症心身障害児者に対する筋緊張緩和に向けた取り組み」
リハビリテーション室	「嚥下機能評価における超音波（エコー）の活用について」
第8期プロナース	「重症心身障害児者施設に入職した中途採用看護師が抱える困難への対応」
第8期プロナース	「拒否反応のある重症心身障害児者の歯科診療の看護実践の視点」

IV SLP センターアーク

IV. SLPセンターアーケ

1. 施設概要

- 1) 名称 : SLP センターアーケ
- 2) 所在地 : 東京都東村山市青葉町三丁目 9 番地 33、同番 35
- 3) 開設年月日 : 2021（令和 3）年 3 月 1 日
- 4) 施設の規模
 - ①敷地面積 : 1,558.22 m²
 - ②建物面積 : 771.74 m²
 - ③延床面積 : 1,223.23 m²
- 5) 建物構造 ; 鉄骨造 地上 2 階建て

エメット保育園（小規模保育事業A型）

1. 施設概要

1) 定員

0歳児枠：6人、1歳児枠：6人、2歳児枠：7人

2) 在園児数

(単位:人)

受入れ枠	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	3	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6
1歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
2歳児	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
合計	16	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19

2. 保育

1) クラス別目標

①ちゅうりっぷ組：0歳児枠（0～1歳）

一人ひとりの成長発達に合わせた生活リズムの中で、保育士との信頼関係を築きながら安心して成長できる保育を実践する。

②ひまわり組：1歳児枠（1～2歳）

- ・「自分で！」の気持ちを尊重し、子供たち一人ひとりの根気を信じて見守り達成感を得ることで自己肯定感を育てる。
- ・自我の芽生えを受け止め安心して喜怒哀楽を表現することで情緒の安定を図り、心豊かに育っていくよう取り組んでいく。

③さくら組：2歳児枠（2～3歳）

- ・保育士に援助してもらいながらも、着替えなど身の回りのことを自分でできるようになっていき、自らやってみようという意欲を育てる。
- ・それぞれの子どもが安心して園生活を行う中で、十分に自己発揮・自己表現ができるようにする。自らの気持ちを相手に伝えられるような力を育てる
- ・友達とかかわり合いながら、友達の気持ちに気づき共に遊ぶ楽しさを体験する。

3. 年間行事

月	内容
4 月	マイム・エメット合同入園式、
5 月	クラス別保護者会
6 月	尿検査、前期歯科検診、前期健康診断
7 月	マイム・エメット合同夏祭り、2 歳児ジャガイモ掘り（猛暑のため中止）、水遊び
8 月	水遊び
9 月	
10 月	運動会
11 月	後期歯科検診、後期健康診断、2 歳児さつまいも掘り
12 月	マイム・エメット合同クリスマス会
1 月	2 歳児保護者会
2 月	1 歳児保護者会、2026 年度新入園児面接・健康診断
3 月	0 歳児保護者会、卒園式

※上記以外に、毎月誕生会（合同）、お話し会（合同）、食育、避難訓練、身体測定を実施した。

- ・毎月 1 回「エメットだより」「クラスだより」「ほけんだより」を発行。
ICT アプリコドモンを活用し、ペーパーレス化した。
- ・年間を通してマイム・エメットの交流としてくるくるタイムを実施した。

4. その他

2025年度より新たに東京都サービス推進事業を実施した。

- ①小中高生保育士体験（7月22日～8月31日までの期間 延べ10日間）
- ②子育て体験学習（年間を通して12名の参加）
- ③保育所体験（年間を通して20名の参加）

児童発達支援センターマイム（障害児通所支援事業）

1. 事業方針

1) 方針

児童発達支援とは、障害のある子どもに対し、身体的・精神的機能の適切な発達を促し、日常生活および社会生活を円滑に営めるよう支援するものであり、各々の障害特性に応じた福祉的・心理的・教育的・医療的援助を総合的に行うものである。

児童発達支援センターマイムは、子ども一人ひとりの安全と安心を守り、その可能性を最大限に伸ばすことを目指している。そのため、個々のニーズに応じた質の高い支援を提供するとともに、個別支援計画に基づき、内外の多分野・多職種の専門家と協働しながら、以下の視点に基づく支援を、本人・保護者・地域に対して継続的に実施していく。

- ① 発達支援（本人支援及び移行支援の推進）
- ② 家族支援（保護者支援、兄弟支援の推進）
- ③ 地域支援（インクルーシブな支援の推進）
- ④ 組織的運営（協働 クラス支援 行事、研究・研修などを協働で実施推進）

2. 事業概要

1) サービスの種類

- ① 児童発達支援（児童発達支援センター）
- ② 居宅訪問型児童発達支援
- ③ 保育所等訪問支援

2) 対象者

- ① 重症心身障害、重症心身障害以外（合計28人）
重症心身障害児、知的障害児、発達障害児、肢体不自由児など
- ② 通常の事業実施地域は、東村山市とその隣接地域。ただし、障害児が自ら事業所へ通うことができれば利用可能とする。また、事業所の送迎車を利用する場合には、居宅までの距離が直線で概ね4km圏内

3) 概要

- ① 通所利用定員数：28人
- ② 児童発達支援 重症心身障害児 1日支援 クラス名「ひかり」
- ③ 児童発達支援 重症心身障害児以外 1日支援 クラス名「にじ」
短時間支援 クラス名「そら」

※2024(令和6)年11月1日より児童発達支援センターの一元化を開始

- ④ 保育所等訪問支援 名称「かぜ」
- ⑤ 居宅訪問型児童発達支援 名称「かぜ」

4) 職員配置

(単位:人)

	常勤	非常勤	合計	資格等
管理者	1		1	児童指導員
児童発達支援管理責任者	2		2	児童指導員 1、看護師 1
保育士	5	5	10	
看護師	3		3	
児童指導員	2	5	7	
機能訓練担当職員	3	2	5	理学療法士 1、作業療法士 2、言語聴覚士 1、公認心理師 1
栄養士	1		1	
調理師	1		1	
運転士		1	1	
嘱託医		1	1	
合計	18	14	32	

2026年3月31日時点

*その他 歯科検診年2回「オリーブ小児歯科」契約

3. 実績

1) 年齢別利用児内訳

(単位:人)

クラス	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳以上	合計
ひかり(重心一日)	1	2	2	3	1	2	0	0	11
にじ(重心外一日)	0	0	0	0	11	7	8	0	26
そら(重心外短時間)	0	0	1	2	10	12	3	0	28
かぜ(保育所等訪問支援)	0	1	1	1	5	12	4	3	27
かぜ (居宅訪問型児童発達支援)	0	0	1	0	0	0	0	1	2
合計	1	3	5	6	27	33	15	4	94

2) 延利用数の推移

(単位:人)

クラス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ひかり	67	63	80	84	58	89	82	62	78	73	71	87	894
にじ	207	261	271	298	226	236	261	191	238	244	203	260	2,896
そら	64	69	73	78	67	78	91	72	83	86	93	91	945
かぜ	23	29	26	26	9	27	16	15	17	17	17	19	241
合計	361	422	450	486	360	430	450	340	416	420	384	457	4,976

4. 利用者支援

① 保護者会実施

にじクラス保護者会 2 回実施。
ひかりクラス保護者会 1 回実施
そらクラス保護者会 1 回実施。

② ホームカミングデーの実施（卒園児及び保護者支援）

にじクラス 1 回実施
ひかりクラス 1 回実施
そらクラス 1 回実施

③ 保護者研修会（オンライン、対面、動画配信による）

- ア. 「小学校（通常級及び情緒学級）の就学について」
～東村山市内の小学校の就学について～
卒園生保護者 3 名講師
- イ. 「小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の就学の流れについて」
東村山市障がい児保護者連絡会
保護者の先輩 2 名が講師
- ウ. 乳幼児（1、2 歳児）親子教室と相談会
マイム親子遊びの会 わくわく 全 18 回
ころころの森親子遊びの会（東村山市子育て総合支援センターころころの森）全 6 回

5. 施設評価

1) 第三者評価

NP0法人日本ライフサポートによる保護者および職員アンケートと現場調査

2) 児童発達支援の自己評価

保護者および職員アンケートの実施

6. 関係機関との連携

1) 東村山市

- ① 児童発達支援事業所に関する連絡会（8 月、2 月）開催
インクルーシブ支援について講義、地域における支援の中核的役割について
- ② 東村山市自立支援協議会定例会（8 月、12 月、3 月）
- ③ 地域のこども達の集まる様々な場におけるインクルージョンの推進 年6回
- ④ 東村山市健康福祉部障害支援課 随時相談
- ⑤ 東村山市第 6 次地域福祉計画策定委員会

2) 利用児の地域連携

- ① 乳幼児マイムわくわく親子遊びの会実施 年18回
- ② 併行保育先の保育園・幼稚園従業員見学、当センター従業員の施設研修 年3回
- ③ 東村山市内保育施設の職員を対象とした見学会（11月 3回実施、約20名の参加）
- ④ 地域の相談支援専門員情報交換
- ⑤ 乳幼児健診等における発達相談・発達支援の推進
- ⑥ 乳幼児座位保持イス と 乳幼児用テーブルや子ども用 着圧ベストの貸し出し支援
- ⑦ メールやSNS 等を活用した発達相談・発達支援の推進
- ⑧ 公式InstagramやLINE相談の実施

7. 職員研修

1) 講師研修

- ① 令和7年度 摂食支援研修 年間 12 回
講師 NPO 法人地域ケアさぼーと研究所 作業療法士白鳥芳子氏 行山真知子氏
- ② 令和7年度 発達障害児支援研修会 年間 5 回
講師 明星大学 教授 廣澤 満之 氏
- ③ 令和7年度 就学相談研修 公認心理師（教育相談員） 上原 香苗氏
- ④ 令和7年度「先輩ママに聞いちゃおう」研修会Ⅰ及びⅡ
- ⑤ 令和7年度児童発達支援における重症心身障害児支援研修会
講師 NPO 法人地域ケアさぼーと研究所 諏訪 勝巳 氏
- ⑥ SLP センターArk 合同研修会（令和8年2月21日 16時から18時まで）
講師：株式会社スペースなる 理学療法士 川島瞳 氏 辻悦子 氏
「子ども達との関わり方・子どもの身体の基本」

2) オンデマンド研修

- ① 『田中先生の仲間と子どもたち～てんかんと呼吸について～』
- ② 『小さく生まれた赤ちゃんについて～』
- ③ 『ASDの人への視覚的コミュニケーション支援 -PECS®を中心に-』
- ④ 『発達障害・自閉症の理解と対応～行動障害を引き起こさないために～』
- ⑤ 『傷ついた親子に、幸せを～小児神経科医・友田明美』（虐待防止研修）
- ⑥ 『障害者施設の虐待について』

3) 合同活動（インクルーシブな取組）

「SLP センターアーク」建物内の「エメット保育園」と一緒に行う保育活動を実施した。また、週単位の「くるくるタイム」、月単位の「誕生会」、年間行事の「夏祭り、クリスマス会、節分」を実施した。

新たな取り組みとして、「児童発達支援センター×センサリープレイ」を開始し、4月から月1回、年間11回継続して実施した。活動を通じて、障害の有無にかかわらず、子供どうしが共に遊び、交流する機会を創出することができた。継続的な実践を重ねることで、インクルーシブな仲間づくりを促進するとともに、より効果的な支援プログラムの構築につなげることができた。

社会福祉法人 天童会 会報

[2025（令和7）年度]

発行日	令和 8 年 7 月 22 日
発行者	社会福祉法人 天童会 理事長 大石 勉
編集	社会福祉法人 天童会 法人事務局
住所	〒189-0002 東京都東村山市青葉町 3-31-1
電話	042-391-1377(代)
FAX	042-392-5422
URL	https://www.tendoukai.net/